

# シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校  
助産学科

2026 年度

# シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単 位	単位時間数	時 間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

## 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

### ① 授業科目名

### ② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

### ③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

### ④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

### ⑤開講年度

### ⑥年次

授業を受ける学年です。

### ⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

### ⑧授業回数

### ⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

### ⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

### ⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

### ⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

## シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習→授業→復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

### 【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

教育内容	授業科目名	指定規則	学校指定		1年次	
		単位数	単位数	時間数	前期	後期
基礎助産学	助産学概論	6	1	15	1	
	生命倫理		1	15	1	
	家族社会学		1	15	1	
	女性の心理学		1	15	1	
	女性の健康科学		2	45	2	
	専門職連携演習		1	15	1	
	助産研究（文献講読）		1	15	1	
助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期	10	1	45	1	
	助産診断・技術学Ⅱ 分娩期		1	30	1	
	助産診断・技術学Ⅲ 分娩期の助産技術		1	60	1	
	助産診断・技術学Ⅳ 産褥期		1	30	1	
	助産診断・技術学Ⅴ 新生児期		1	30	1	
	助産診断・技術学Ⅵ ハイリスクと異常		2	45	2	
	助産過程の展開		1	30	1	
	母乳育児支援		1	30	1	
	助産師のコミュニケーション		1	30	1	
	健康教育の技術		2	45	2	
地域母子保健	地域母子保健	2	2	30	2	
助産管理	助産管理	2	2	30		2
講義小計		20	24	570	24	
臨地実習 助産学実習	助産診断・技術学実習	11	9	405		9
	地域母子保健実習		1	45		1
	助産管理実習		1	45		1
実習小計		11	11	495	11	
総合計		31	35	1065	35	

授業科目名	助産学概論	実務経験講師	○
担当者名	赤坂 宏美 持田 益身	実務経験	助産師
開講年度	2026年度	学 期	前期
年 次	—	授業回数	7回
単位数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	この授業科目は助産学を学ぶ上での基盤に位置し、助産とは何か、助産師の役割・使命について学びます。そのために、歴史や変遷を知り、現在助産師に求められていることを明確にします。 さらに助産の対象、助産師が実践するケアとは何かを理論を用いて検討することで、助産師の専門職としての役割に気づき、助産実践を行う前提として知識・技術を修得するための構えを形作る授業科目です。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史的な変遷を踏まえ、助産、助産師の役割を述べるができる</li> <li>2. 助産の対象である女性の権利を尊重し、生涯の健康を支える必要性と方法について説明することができる</li> <li>3. 助産実践の場面で生じる倫理的課題について知り、助産師の役割を想起できる</li> <li>4. 女性や母子・家族を取り巻く社会の変遷と現状について説明できる</li> <li>5. 助産実践のあり方について述べるができる</li> </ol>		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1 赤坂	1. イントロダクション 何を学ぶか なぜ学ぶかを考える 2. 助産の概念を知る 3. 助産師の声明から キーワード：助産 出産 女性 母性 変遷 テキスト 配布資料	ガイダンス 講義	事前：出産の変遷について教科書を精読 授業終了後：今回の授業で得た気づきを追加し提出。
2	「助産師の声明」からひもとく定義 助産師が行うケアのモデル 女性中心のケア	講義 他	
3 赤坂	助産師が関わる倫理的課題 「倫理的に考える 行動する」とはどのようなことか	グループワーク 講義	教科書で範囲を予習して授業に臨む。

4 赤坂	助産師と関係法規 業務と義務  キーワード：対象理解 意思決定 女性中心のケア	講義 グループワーク	
5	助産師教育とは 助産師を取り巻く現状と未来  キーワード：教育機関 カリキュラムの変遷 卒業時の到達目標 卒後教育 アドバンス助産師 助産師の偏在 人口の変遷 産科医療 超少子時代の助産師	講義	
6	1. 助産の歴史と文化 1)助産の変遷 2)諸外国の助産の変遷 3)助産の文化  キーワード：お産の歴史 お産と文化 テキスト： p130～p159 参考書②	講義	
7	1. 母子保健の動向 1)母子保健の歴史 2)母子保健の動向と諸制度  キーワード：母子保健 指標と動向 行政 関係法規 テキスト：p98～128 参考書③	講義	母子保健について重要語句の定義をまとめ授業に持参する。
8	単位認定試験		

使用テキスト	助産学講座1 基礎助産学(1)助産学概論
参考書 (参考資料等)	①助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論 ②【新版】助産師業務要覧 基礎編 日本看護協会出版会
この授業科目を前提とする主な科目	基礎看護学 母性看護学
この授業科目から発展する主な科目	基礎助産学の科目群 助産診断・技術学の科目群 助産管理 地域母子保健 助産研究(文献講読) 助産学実習(助産診断・技術学実習 助産管理実習 地域母子保健実習)
成績評価の方法	筆記テスト(単位認定試験) レポート課題 リフレクションシートの提出と内容
その他 受講生への要望等	助産観を形作る上で欠かすことのできない授業科目です。一人ひとりが「どんなケアを行う助産師を目指すのか」「助産師になって何を実現するのか」を考えながら受講することを望みます。

授業科目名	生命倫理	実務経験講師	—
担当教員名	渡辺 忠	実務経験	—
開講年度	2026年度	学 期	前期
年 次	—	授業回数	8 回
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	<p>生命の誕生に携わる助産師には倫理的感応力が求められます。対象となる一人ひとりの女性や子ども及び家族を尊重する姿勢が大切であり、そのための基盤となる生命の尊厳と倫理観について学びます。</p> <p>生殖補助医療や出生前診断などの現在の動向を知り、助産師としての基本理念について学び、生殖に関わる倫理的問題をその根幹から理性的に理解して、どのように考え行動するかを追求する姿勢を養う科目です。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生殖医療等の医療現場における生命倫理の現状と基本的な態度や考え方について説明することができる。</li> <li>2. 生命倫理学上の諸問題について、助産師の立場で考えを述べることができる。</li> <li>3. 助産実践のあり方について、倫理的問題意識を持って考えを述べることができる。</li> </ol>		

#### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	<p>1.生命倫理とはどのようなものか</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)生命倫理の位置づけ</li> <li>2)なぜ生命倫理が必要なのか</li> <li>3)生命倫理の考え方</li> <li>4)四原則アプローチ</li> </ol> <p>2.生殖の倫理的問題とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)自律・自己決定原則</li> <li>2)子どもをもつ権利・生殖の自己決定</li> </ol> <p>キーワード: 哲学 倫理学 医療倫理の四原則</p> <p>リアクティブ・ライツ</p>	講義	<p>リアクション・パター</p> <p>・授業を聞いて考えたこと</p> <p>・質問、要望</p> <p>演習課題提示</p>
2	<p>1.生殖補助医療</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)生殖技術と生殖補助医療</li> <li>2)不妊治療の現状と負担</li> <li>3)不妊治療・生殖補助医療の倫理的問題</li> </ol> <p>キーワード: 不妊治療 生殖補助医療(ART) 精子バンク</p> <p>精子提供(AID)</p>	講義	<p>リアクション・パター</p> <p>・授業を聞いて考えたこと</p> <p>・質問、要望</p>

3	<p>1.代理懐胎・代理母</p> <p>1)卵子提供・胚提供の諸問題</p> <p>2)代理母の倫理問題</p> <p>3)医療における情報と守秘義務</p> <p>キーワード:卵子提供 代理母 守秘義務</p>	講義	<p>リアクション・パナー</p> <p>・授業を聞いて考えたこと</p> <p>・質問、要望</p>
4	<p>1.生殖補助医療の中から選んだあるケースについての討論</p> <p>キーワード:</p>	演習 (グループワーク)	<p>リアクション・パナー</p> <p>・授業を聞いて考えたこと</p> <p>・質問、要望</p>
5	<p>1.人工妊娠中絶</p> <p>1)人工妊娠中絶の現状</p> <p>2)人工妊娠中絶の方法</p> <p>3)生命倫理における人工妊娠中絶論</p> <p>2.多胎妊娠と減数手術</p> <p>1)多胎妊娠と減数手術に関する経緯</p> <p>2)多胎妊娠と減数手術の現状</p> <p>3)減数手術の問題点</p> <p>キーワード:優生保護法 人工妊娠中絶 胎児の道徳的地位 多胎妊娠のリスク 減数手術</p>	講義	<p>リアクション・パナー</p> <p>・授業を聞いて考えたこと</p> <p>・質問、要望</p>
6	<p>1.障害をもつ新生児の治療停止</p> <p>1)障害新生児の治療停止をめぐる事情</p> <p>2)(親の)自己決定と医療のパターナリズム</p> <p>3)コスト負担:配分的正義</p> <p>2.出生前診断の倫理問題</p> <p>1)出生前診断・着床前診断</p> <p>2)出生選択の倫理</p> <p>キーワード:障害 生の質(QOL) コンフリクト 出生前診断 着床前診断(PGD)</p>	講義	<p>リアクション・パナー</p> <p>・授業を聞いて考えたこと</p> <p>・質問、要望</p>
7	<p>1.障害と生の質の選択の倫理問題</p> <p>1)生の質の選択の生命倫理</p> <p>2)障害学と障害の社会モデル</p> <p>3)合理的選好と障害の医療モデル</p> <p>4)現代における「優生思想」の意味</p> <p>5)障害とエンハンスメント</p> <p>キーワード:障害 生の質 ES細胞 デザイナー・ベビー エンハンスメント 代置原理</p>	講義	<p>リアクション・パナー</p> <p>・授業を聞いて考えたこと</p> <p>・質問、要望</p>

8	単位認定試験		
---	--------	--	--

使用テキスト	講師作成資料
参考書・資料 等	吉武久美子『産科医療と生命倫理』昭和堂 小林亜津子『生殖補助医療はヒトを幸せにするのか 生命倫理から考える』光文社文庫 赤林朗ほか『入門 医療倫理Ⅰ』『同Ⅱ』『同Ⅲ』勁草書房
この授業科目を前提とする主な科目	看護学概論 母性看護学
この授業科目から発展する主な科目	助産学概論 助産診断・技術学の科目群 助産管理 地域母子保健 助産研究(文献講読)助産学実習(助産診断・技術学実習 助産管理実習 地域母子保健実習)
成績評価の方法	筆記テスト(小論文作成)
その他 受講生への要望等	助産観を形作る上で欠かすことができない授業科目です。一人ひとりが問題意識をもって「どのように関われば対象を尊重できるのか。」「倫理的感応力を高めてケアするためにどうすればよいか。」を考えながら受講して下さい。

授業科目名	家族社会学	実務経験講師	○
担当者名	松岡 竜大 岡田 由貴子	実務経験	公認心理師 他
開講年度	2026年度	学 期	通年
年 次	—	授業回数	10回(各講師講義4回 試験1回)
単位数	1単位	単位時間数	16時間(講義)+2時間(認定試験)
授業科目の概要	<p>この科目では現代社会で生きる女性・家族の役割獲得を助産師として支え、発達を促進する上で必要な知識を学修します。社会の変化の中で女性や母親に求められる役割や、発達過程は変化し続けており、助産師による女性・家族のケアニーズは高まっています。</p> <p>リプロダクティブヘルスにたずさわる専門職として、多様な視点から、家族・女性・母性・父性について学び、助産師として適切に支えるための視点を養います。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の家族の機能・役割・発達課題について説明できる。</li> <li>2. 社会学の観点から母性・性の定義・特性について説明ができる。</li> <li>3. 文化的側面からの出産について説明できる。</li> <li>4. 現代社会における母親・父親の特徴と課題を社会的な視点から説明できる。</li> <li>5. 助産の対象として女性、子ども、親となる人が遭遇する困難や課題について視野が拡大する。</li> </ol>		

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	松岡	家族と社会 家族とは何か 家族の機能とはたらき 家族関係の発達と課題 キーワード：主観的家族像 ライフコース	講義	教科書を読んで授業に臨む (第3章A 家族の機能と役割)
2 ・ 3	松岡	家族と社会：近代家族の特徴と問題 社会学から見た性：生物学的ジェンダー ジェンダー・アイデンティティ、性役割 出産にまつわる文化① キーワード：ジェンダー・アイデンティティ 性役割	講義	教科書を読んで授業に臨む (第3章B/C 第4章A)
4	松岡	出産にまつわる文化②：現代の出産を考える キーワード：通過儀礼	講義	教科書を読んで授業に臨む

5	岡田	母子関係の発達と課題 母性の発達過程 キーワード： 母親への発達のトランジション 母親の心理的ウェルビーイング	講義	教科書を読んで授業に臨む
6	岡田	母子関係の発達と課題 妊娠期の母子関係 新生児期・乳児期の母子関係 キーワード：ヘルスリテラシー 愛着	講義	教科書を読んで授業に臨む
7	岡田	母子関係の発達と課題 幼児期・児童期の母子関係 母子関係の病理 キーワード：児童虐待	講義	教科書を読んで授業に臨む
8	岡田	母子関係の発達と課題 さまざまな状況で子育てする母親の心理 父子関係の形成と課題 父性の発達 父親の役割変化 キーワード：父性 親(性)準備性	講義	教科書を読んで授業に臨む
9		単位認定試験		

使用テキスト	①基礎助産学【4】母子の心理・社会学 医学書院
参考書 (参考資料等)	助産学講座 5 助産診断・技術学 I 第 5 版 医学書院
この授業科目を前提とする主な科目	心理学 文化人類学 社会学 基礎看護学 母性看護学 小児看護学 助産学概論 女性の心理学 生命倫理
この授業科目から発展する主な科目	助産診断・技術学の科目群 地域母子保健 助産管理 助産学実習
成績評価の方法	講師ごとに終講時 50 点満点の筆記試験を実施
その他 受講生への要望等	関係書籍を講読するなど、主体的な学習を希望します。

授業科目名	女性の心理学	実務経験講師	○
担当教員名	草野享子	実務経験	臨床心理士
開講年度	2026年度	学 期	前期、
年 次	—	授業回数	8回
単位数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	<p>さまざまなライフステージにおける女性・母親の心理的特徴と、産前・産後うつやドメスティック・バイオレンス、児童虐待といった病理に陥る心理的要因と支援について学習します。現代社会における母親・父親・子育ての特徴と課題を理解し、助産師として適切に支えるための視点を養うための授業科目です。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまなライフステージにおける女性の心理的特徴が述べられる。</li> <li>2. 女性のライフサイクルにおけるメンタルヘルスへの支援が述べられる。</li> <li>3. 家族の社会的機能や子育て支援が説明できる。</li> <li>4. 心理的特徴を理解した上で、心理面から女性を支えるカウンセリング技法の方法が習得できる。</li> </ol>		

#### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	草野	<p>1. 女性のライフサイクル各期における心理・社会的課題</p> <p>1) 思春期・青年期女性の発達と心理・社会的課題</p> <p>キーワード: 思春期 青年期 アイデンティティ</p> <p>メンタルヘルス</p> <p>教材: ①P2～27</p>	講義	教科書を読んで授業に臨む
2	草野	<p>1. 親準備性の発達とメンタルヘルス</p> <p>キーワード: 結婚 妊娠 出産</p> <p>マタニティブルーズ 産後うつ</p> <p>教材: ①P28～39 47～56</p>	講義	教科書を読んで授業に臨む
3	草野	<p>1. 成人期初期・中期女性の発達と心理・社会的課題</p> <p>1) 妊娠・出産をめぐる諸問題</p> <p>職業発達と就労実現・継続</p> <p>キーワード: 不妊治療 出生前診断</p> <p>周産期喪失 人工妊娠中絶</p> <p>教材: ①P39～47</p>	講義	教科書を読んで授業に臨む

4	草野	1. 更年期・老年期女性の発達と心理・社会的課題 1) 更年期の身体的変化とその心理的受容 2) 更年期症状・更年期障害 3) 結婚生活の変遷と離婚 4) 職業生活の変化 5) 対人関係の変化 6) 老年期の身体的変化と受容 7) メンタルヘルス キーワード: 更年期 中年期 老年期 更年期うつ 認知症 教材: ①P57～74	講義	教科書を読んで授業に臨む
5	草野	1. 家族関係の発達と課題 1) 母子関係の形成と課題 キーワード: 母親役割 母子関係 児童虐待 愛着 教材: ①P76～110	講義	教科書を読んで授業に臨む
6	草野	1. 家族関係の発達と課題 1) 母子関係の形成と課題 (1) 母子関係の病理 2. カウンセリング技法 キーワード: 児童虐待 発生要因 周産期うつ カウンセリング 教材: ①P98～103	講義 演習	教科書を読んで授業に臨む
7	草野	1. 父子関係の形成と課題 1) 父子の発達過程 2) 父子関係と子どもの発達 3) 父親のメンタルヘルスと家族のリスク 2. 家族・地域のネットワーク キーワード: 父性 父子関係 父親役割 メンタルヘルス 対人関係ネットワーク 教材: ①P111～119 133～148	講義	教科書を読んで授業に臨む
8		単位認定試験		

使用テキスト	①基礎助産学【4】母子の心理・社会学 医学書院
参考書・資料 等	助産学講座 5 助産診断・技術学 I 第 5 版 医学書院
この授業科目を前提とする主な科目	母性看護学 看護学講座 心理学 地域母子保健
この授業科目から発展する主な科目	助産診断・技術学 I 妊娠期 助産診断・技術学 II 分娩期 助産診断・技術学 IV 産褥期 助産学概論 地域母子保健実習 助産診断・技術学実習 助産管理実習
成績評価の方法	単位認定試験 100 点
その他 受講生への要望等	女性のライフステージにおける心理的特徴を学び、さまざまな女性に寄り添える助産師を目指しましょう。

授業科目名	女性の健康科学		実務経験講師	○
担当者名	岸本恭紀 遠藤英作 川村理恵 須永恭子 成島しのぶ 柏崎祥子 林辺由利子 他		実務経験	医師 助産師
開講年度	2026年度	学 期	前期	
年 次	—	授業回数	23回	
単位数	2単位	単位時間数	45時間	
授業科目の概要	人間の性と生殖にかかわる特徴及び生殖系の形態と生理・機能、女性の疾患を理解し、助産活動の基盤となる概念や特有の健康問題について学びます。			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性の性・生殖の基本的な概念が理解できる</li> <li>2. リプロダクティブヘルツ／ライツについて理解できる</li> <li>3. 母子の健康に影響を及ぼす因子について理解できる</li> <li>4. 女性特有の疾患の病態生理および治療を理解し、健康上の課題が明確にできる</li> <li>5. プレコンセプションケアの意義や包含される内容について理解できる</li> </ol>			

#### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	小古山	性と生殖の形態・機能 1)人体の発生 2)男性生殖器の構造と機能 3)女性生殖器の構造と機能 4)骨盤底の構造と機能 5)性周期と調節機序 キーワード:着床 女性生殖器 骨盤底の構造 月経 教材:教科書(母子の基礎科学) 配布資料	講義	
2	高橋	母子と免疫 1)免疫のしくみ 2)妊娠の維持機能と免疫 不妊症 1)不妊症: 女性側原因・男性側原因 生殖補助医療 1)人工授精 2)着床前遺伝子診断 3)生殖補助医療の問題 キーワード:妊娠維持機構 ホルモン 免疫 排卵障害 卵管の障害 卵子の寿命 生殖 教材:教科書(母子の基礎科学) P156~172 p43~49 p136~154 配布資料	講義	

3	岸本	<p>女性の感染症</p> <p>1)性感染症</p> <p>2)婦人科の炎症疾患</p> <p>3)罹患者へのアセスメントと支援</p> <p>キーワード:ヘルペス 尖圭コンジローマ HPV クラミジア 膣炎 子宮頸管炎</p> <p>教材:教科書(母子の基礎科学)p198~216</p> <p>配布資料</p>	講義	
4	岸本	<p>性と生殖に関する疾患</p> <p>1)ライフサイクルに関連した疾患・症状 思春期・成熟期・更年期・老年期</p> <p>2)女性生殖器と乳房の疾患</p> <p>キーワード:性分化異常 無月経 月経異常 月経困難症 月経前症候群(PMS) やせ 肥満 閉経 子宮腫瘍 乳がん</p> <p>教材:教科書(母子の基礎科学)p218~240 p242~272</p>	講義	
5	遠藤	<p>遺伝と遺伝性疾患</p> <p>1)染色体異常 2)遺伝疾患</p> <p>3)出生前診断</p> <p>キーワード:ダウン症 18トリソミー クラインフェルター症候群 染色体優勢遺伝</p> <p>教材:教科書(母子の基礎科学)p84~125</p> <p>配布資料</p>	講義	
6	遠藤	<p>母子と感染</p> <p>1)母子感染 風疹・ヘルペス・水痘・肝炎ウイルス・他</p> <p>キーワード:風疹 トキソプラズマ ヘルペス B型肝炎 ALT B群溶連菌</p> <p>教材:教科書(母子の基礎科学)p174~196</p> <p>配布資料</p>	講義	
7	須永	<p>女性の性・生殖の基本的な概念(1)</p> <p>1)リプロダクティブヘルツ/ライツ</p> <p>キーワード: リプロダクティブヘルツ/ライツ</p> <p>教材:教科書(助産学概論 P28~34)</p> <p>配布資料</p>	講義	
8	須永	<p>女性の性・生殖の基本的な概念(2)</p> <p>1)リプロダクティブヘルツ/ライツ</p> <p>キーワード:リプロダクティブヘルツ/ライツ セクシュアリティ ジェンダー</p> <p>教材:教科書(助産学概論)P28~34 (母子の基礎科学)P64~82</p>	講義	

9	成島	<p>性と性行動(1)</p> <p>1) 性とセクシュアリティ</p> <p>2) 発達段階とセクシュアリティ</p> <p>3) 人間の性行動の生理と心理</p> <p>4) 性反応</p> <p>5) 性をめぐる諸問題</p> <p>キーワード:性 ジェンダー セクシュアリティ</p> <p>思春期の性 成熟期の性 中高年期の性 性差</p> <p>教材:教科書(母子の基礎科学)P64~82</p> <p>配布資料</p>	講義	
10	成島	<p>性と性行動(2)</p> <p>1) 性とセクシュアリティ</p> <p>2) 発達段階とセクシュアリティ</p> <p>3) 人間の性行動の生理と心理</p> <p>4) 性反応</p> <p>5) 性をめぐる諸問題</p> <p>キーワード:セクシュアリティ 性差 性教育</p> <p>性機能障害 性嗜好障害 性同一性障害</p> <p>教材:教科書(母子の基礎科学)P64~82</p> <p>配布資料</p>	講義	
11	柏崎	<p>母子の健康に影響を及ぼす因子(1)</p> <p>1) 生活環境</p> <p>2) 物理・化学的環境 3) 嗜好品 4) 薬物</p> <p>キーワード:母子への影響 リスク因子 健康被害</p> <p>テキスト p2~31 p92~111</p>	講義	
12	柏崎	<p>母子と運動</p> <p>妊産婦の運動生理学</p> <p>妊産婦の運動の実際</p> <p>キーワード:妊娠期 正しい姿勢 運動習慣</p> <p>教材:教科書(母子の健康科学) p112~153</p>	講義 実技	
13	持田	<p>母子と栄養(1)</p> <p>1) 妊娠~授乳期の栄養</p> <p>2) 栄養状態の評価法</p> <p>キーワード:母子の栄養 栄養状態の評価 食事指導</p> <p>教材:教科書(母子の健康科学)p32~61</p>	講義	継続事例の栄養評価につながる内容とする。
14	持田	<p>母子と栄養(2)</p> <p>1) 乳幼児の栄養</p> <p>2) 学童・思春期の子どもの栄養</p> <p>キーワード:母乳 離乳 幼児食</p> <p>教材:教科書(母子の健康科学)p62~89</p> <p>配布資料</p>	講義	

15	北澤	<p>プレコンセプションケア 導入の経過 重要性 具体的施策 重要事項整理 不妊治療 感染症 1)母子感染 2)性感染症 キーワード:思春期 第2次性徴 月経の異常 若年妊娠 社会的問題 プレコンセプションケア 教材:教科書(母子の基礎科学)p218~240 教科書(助産診断・技術学Ⅰ)p182~214</p>	講義	単位認定試験対象外
16	川村	<p>女性のライフサイクル各期の健康課題 DVに悩む女性への支援 キーワード:DV DV サイクル DV 防止 助産師の役割 教材:教科書(助産診断・技術学Ⅰ)p220~222</p>	講義	事前配布の「ドメスティックバイオレンスに悩む女性への支援」を熟読し講義に臨む
17	川村	<p>女性のライフサイクル各期の健康課題 月経障害に悩む女性への支援 キーワード:月経 月経障害 PMS 症状軽減のケア 教材:教科書(助産診断・技術学Ⅰ)p210~212</p>	講義	
18	持田	<p>女性のライフサイクル各期の健康課題 不妊に悩む女性への支援 キーワード:不妊 不妊治療 教材:教科書(助産診断・技術学Ⅰ)p210~212</p>	講義	単位認定試験対象外
19 20	林辺	骨盤ケア	講義	単位認定試験対象外
21	岩室紳也	思春期の性と心理	講義	単位認定試験対象外 (助産学生合同研修)
22		単位認定試験(医師範囲)		
23		単位認定試験(助産師範囲)		

使用テキスト	基礎助産学[1] 助産学概論 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 (医学書院) 基礎助産学[3] 母子の健康科学 助産学講座[5] 助産診断・技術学Ⅰ (医学書院)
参考書 (参考資料等)	病気が見える9(婦人科) 病気が見える 10(産科) (メディックメディア)
この授業科目を前提とする主な科目	解剖・生理学 疾病論(産婦人科領域) 微生物学 公衆衛生学 母性看護学
この授業科目から発展する主な科目	助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期 助産診断・技術学Ⅳ 産褥期 助産診断・技術学Ⅴ 新生児期
成績評価の方法	筆記試験など
その他 受講生への要望等	

授業科目名	専門職連携演習	実務経験講師	○
担当者名	斎藤 美玖 他 各学科教員	実務経験	助産師 他
開講年度	2026年	学 期	通年
年 次	—	授業回数	8 回
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	<p>本校は、複数の医療福祉の専門職を養成する専門学校として、多職種連携教育に力を注いでいます。この科目では、医療福祉系の複数学科の学生が、互いの職種について学び、自分の職種についても学びを深め、卒業後臨床において、専門職者として他職種と連携・協働するための基礎的知識や能力をはぐくみます。本校では初期・中期・完成期の3段階に分け、学科ごとの学修の進度(表1)に応じて目標を設定し、演習を行います。</p> <p>各学科における位置づけ、科目との関連性は(表2)に示します。</p>		
授業科目の到達目標	<p><b>科目全体</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者中心の医療福祉を提供するための連携・協働、そしてその必要性について理解する</li> <li>2. 専門職者として連携するためのコミュニケーション技術や他者理解、相互尊重、連携への姿勢などの専門職連携実践の基盤を身につける (聴く力、話す力、考える力、他者を知り信頼する力)</li> <li>3. 演習を通して自職種の専門性・役割を認識し、他職種の守備範囲や専門性について理解する</li> </ol> <p><b>初期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種連携・協働とは何か、そして、その学習の必要性がわかる</li> <li>2. 他学科の学生と交流し、他者の意見を聞き、自分の意見を述べるができる</li> <li>3. 自分の目指す職業、専門職に就く自分についてイメージができる</li> </ol> <p><b>中間期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の目指す職種を説明できる</li> <li>2. 交流を通して他職種を知ることができる</li> <li>3. 他学科学生との交流を通して、聴くこと、伝えることに取り組むことができる。</li> <li>4. 多職種が協働することで得られる価値に気づくことができる。</li> </ol> <p><b>完成期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共通の問題に対し、コミュニケーション技術を用いながら、それぞれの職種の視点で問題解決に参画できる。</li> <li>2. ディスカッションを通して聴くこと、自他の専門職の独自性や専門性について気づき、言語化できる。</li> <li>3. これまでに身につけた他者理解、相互尊重、連携の姿勢を演習において発揮できる。</li> <li>4. 対象者中心のサービスを提供するための連携・協働について理解の深まりに気づく。</li> </ol>		

## 授業スケジュールと内容

回	段階	内 容	授業方法	該当学科・学年
1 2	初期	多職種連携・協働、チーム医療の意義や必要性 対人を援助する職業に就くとは 対象となる人の見方、とらえ方 自分が目指す職種のイメージ	講義 グループワーク	理学療法 作業療法 看護 助産 歯科衛生
3 4	中期	お互いの職種を知る 他職種とつながるためのコミュニケーション	ワールドCafé などのワークショップ	中期に該当する年次
5 6	完成期	事例検討会 事例提示・検討 発表 意見交換	グループワーク	完成期に該当する年次
7	2月	障がいをもつ子どもの親の理解	講義	作業療法学科:岡田岳先生

表1:各学科の学年 と IPEの学修段階イメージ(交流時期)

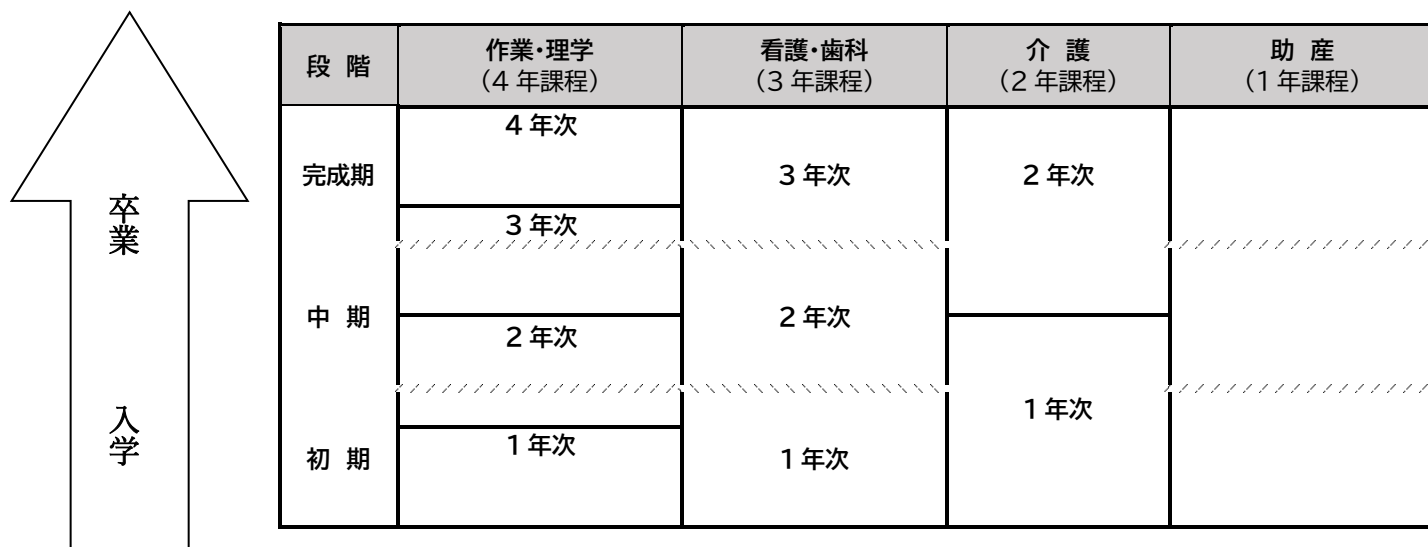


表2:各学科のカリキュラム上の位置づけ

学科名	分野/科目	内 容
理学療法学科	リハビリテーション概論	保健医療福祉とリハビリテーションの理念 ◇国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念(自立支援、就労支援等)、社会保障論、地域包括ケアシステムを理解し、理学療法士が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。 ◇地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う。
作業療法学科	地域作業療法学実習 I	保健医療福祉とリハビリテーションの理念 ◇国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念(自立支援、就労支援等)、社会保障論、地域包括ケアシステムを理解し、作業療法士が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。 ◇地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う。
看護学科	地域・在宅看護論	地域で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、多職種と協働する中での看護の役割を理解する。
	看護の統合と実践	チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ。
助産学科	助産診断・技術学	助産の実践に必要な基本的技術及び対象や他職種と信頼関係を築き協働するためのコミュニケーション能力を高める(聴く、伝える、理解する、調整する能力)
	地域母子保健	多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供するために保健・医療・福祉の専門職と連携・協働しながら地域での子育て世代を支援する能力を身につける。
歯科衛生学科		さまざまな場面で求められる歯科衛生士の役割が理解できる。 多職種と連携・協働するためのコミュニケーション能力を身につける。

この科目の評価	出席状況 時期に応じた評価アンケート 最終レポート
受講生への要望	多職種を養成する本校だからこそ学べる科目です。各期の目標を参照し、チーム医療に携わる自分をイメージして参加してほしいと考えています。また、実施後には時期に応じた評価アンケートへの回答をお願いします。皆さんの目標への到達度を確認すると共に、本校の多職種連携教育を振り返り、よりよい科目へと育てる資源となりますので、ご協力をお願いします。

授業科目名	助産研究(文献講読)		実務経験講師	○
担当者名	赤羽 由美		実務経験	助産師
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	—	授業回数	8回	
単位数	1単位	単位時間数	15時間	
授業科目の概要	<p>この科目では、臨床実践を行う上で、研究が果たす役割を知り、文献を読むための基本的な知識を身につけます。科学的根拠に基づいた実践を行う上で論文を活用する能力は助産師として必須です。実習等を通して関心のあるテーマに対して文献検索を行い、その内容を吟味する方法について学びます。</p> <p>将来的には実践で感じた疑問を解決するために、研究を行い、成果を公表する必要性に気づき自己研鑽し続ける意義を見出してほしいと考えています。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産師にとって実践と研究の関係性が説明できる。</li> <li>2. 研究を行う上での倫理について述べるができる。</li> <li>3. 研究内容に応じた方法の選択について述べるができる。</li> <li>4. 必要とする文献の入手方法がわかり、実践できる。</li> <li>5. 演習を通して文献の意味内容を理解し、活用する方法を実施できる。</li> </ol>			

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	研究の意義・倫理 キーワード：EBP 研究倫理	講義	リフレクション
2	助産学における研究 キーワード：EBP、PI(E)C	講義	リフレクション
3	研究にとって欠かせない文献検索と文献検討 キーワード：一次文献 二次文献 文献検索 文献検討	講義	リフレクション
4	量的研究と質的研究 キーワード：研究方法 研究デザイン	講義	リフレクション
5	文献検討を実践しよう	講義 演習	リフレクション 課題提出
6	文献クリティークとは クリティークの演習	講義 演習	リフレクション
7	クリティークの実践	講義 演習	リフレクション 課題提出
8	クリティークの実践 まとめ	講義 演習	リフレクション 課題提出

使用テキスト	配布資料
参考書 (参考資料等)	適宜紹介する。
この授業科目を 前提とする主な科目	看護学研究 助産学概論 助産診断・技術学の科目群 助産管理
この授業科目から発展 する主な科目	
成績評価の方法	リフレクション 課題提出により評価
その他 受講生への要望等	自主的に進める姿勢を求めます。

授業科目名	助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期		実務経験講師	○
担当教員名	持田 益身 大下 倍代 森川 祐子 桑田知之		実務経験	医師 助産師
開講年度	2026年度	学 期	通年	
年 次	—	授業回数	22回	
単 位 数	1単位	単位時間数	45時間	
授業科目の概要	<p>妊娠は女性の生涯の中でも変化が大きく、支援が求められる時期です。助産師として、妊婦・胎児が健康に経過し、安心して出産を迎えられるようにすること、また、出産後を見越して妊婦や家族への継続的なケアを行うことが必要となります。</p> <p>そのためにはまず助産師にどのような役割責務を有するのか、それを実現するために理念・知識・技術を身につける必要があります。</p> <p>この科目では正常な妊娠経過をベースにしながら、妊婦や家族の心身の状態を診断し、支援する知識・技術を修得することを目的とする授業科目です。</p> <p>「助産過程の展開」</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の身体的・心理社会的変化について説明できる。</li> <li>2. 妊娠期に起こりうる異常とハイリスク・合併症が妊婦に与える影響について説明できる。</li> <li>3. 妊娠期の身体的・心理社会的変化の診断ができ、必要な支援を計画できる。</li> <li>4. 出産を迎え親になる妊婦や家族の心情が分かり、対象をエンパワメントするための支援について考えを述べることができる。</li> <li>5. 妊婦や家族が満足する出産の大切さに気づき、支持的支援について考えを述べるができる。</li> <li>6. 正常な妊娠経過を診査するための視診・聴診・触診・計測診の手技を修得する。</li> </ol>			

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	赤坂	1. 助産診断・技術学の概要 1) 助産診断学とは 2) 助産技術の概要 3) 他の科目との関連性 学び方 キーワード：助産過程 助産診断 ウェル初型診断 助産 実践過程 卒業時の到達目標 教材：テキスト①第1章	講義	
2 3	持田	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠～産後に関係する身体の仕組</li> <li>2. 正常な妊娠とは 妊娠による生理的変化 妊娠による母体の変化と胎児の発育</li> <li>3. 妊娠期間の区切りの意義</li> <li>4. 妊娠期間を継続して見ることの意義</li> </ol>	反転授業 演習	事前学習 妊娠の機序と生理的変化のワークシート

4	持田	2. 妊娠期のマタニティ診断 妊娠の診断 妊娠週数の診断 母体の健康状態 妊娠経過 胎児の健康と発育	演習	
5 6	森川	A. 妊娠初期① 1. 妊娠期の基本事項 1) 妊娠の概念            2) 妊娠成立の機序 3) 妊娠初期の母体の変化 4) 初期に起こりやすいマイナートラブル 2. 日常生活・セルフケアに関するアセスメント 1) 妊娠初期の女性の心理 2) 妊娠期の日常生活行動の変化 3. 社会生活と妊娠 1) 母子手帳の交付と活用 2) 仕事と妊娠 就労女性への支援 キーワード： 教材：テキスト①第2章	実習	非妊時→妊娠 妊娠各期→分娩の 継続性を理解する
7	森川	A. 妊娠初期② 4. 妊娠初期の助産診断とケア	など	
8	森川	B. 妊娠中期① 妊娠中期の母体と胎児 心理面への支援 家族関係形成への支援 出産準備支援とその内容 妊娠中期の助産診断とケア		
9	森川	C. 妊娠後期 妊娠後期のアセスメントポイントとケア		
10 11	大下	日常生活行動への支援 妊婦への保健指導の意義と機会 妊婦の健康な生活を支援するために		

12	大下 他	妊娠経過のアセスメントと診断	演習	
13		1. 妊婦の健康診査		
14		2. 妊娠期のフィジカルアセスメント 情報収集の基本 視診 腹部触診 計測診 など		
15	大垣	胎児のアセスメント		正常波形テスト
16		胎児の発育 胎児の健康状態の診断 p189～ 分娩監視装置の装着と活用		
17	桑田	妊娠期における薬剤・検査		
18				
19	七海	助産師外来の実際	講義 演習	評価外
20		超音波診断の技術		
21		単位認定試験		
22		CBT		評価外

使用テキスト	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 第6版 医学書院 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 日本産婦人科学会 助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版 医学書院
参考書・資料 等	マタニティ診断ガイドブック 第6版 医学書院 今日の助産 改訂第3版 南江堂
この授業科目の前提となる主な科目	母性看護学(妊娠期)解剖・生理学(生殖器) 助産学概論 家族社会学 女性の心理学 女性の健康科学 助産師のコミュニケーション
この授業科目から発展する主な科目	助産過程 助産診断・技術学Ⅱ分娩期 IV産褥期 V新生児期 母乳育児支援 地域母子保健 助産診断・技術学実習 地域母子保健実習
成績評価の方法	筆記試験(単位認定試験) 課題
その他 受講生への要望等	

授業科目名	助産診断・技術学Ⅱ 分娩期		実務経験講師	○
担当教員名	大垣江美子 丸山 深雪		実務経験	助産師
開講年度	2026年度	学 期	前期・後期	
年 次	-	授業回数	15回	
単位数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	<p>分娩期にある産婦および胎児の健康状態は、分娩進行により急速に変化します。</p> <p>そのため、分娩進行に伴う身体的・心理的变化と胎児の健康状態の診断、正常な経過からの逸脱・異常を予測し予防するためのアセスメント能力が求められます。</p> <p>分娩の生理・病態生理と正常からの逸脱を識別するために必要な知識と対象の身体的・精神的・社会的要素・家族も視野にいれた診断・アセスメントからよりよい援助を提供するための知識・技術を修得するための授業科目です。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩の生理分娩進行に伴う身体・心理的变化について説明できる。</li> <li>2. 分娩期の助産診断に必要な診断技術(視診・聴診・触診・計測診・内診)を修得できる。</li> <li>3. 分娩期の身体的・心理的变化の診断ができ、必要なケアが実施するための基盤を作る。</li> <li>4. 分娩経過中の産婦と家族の心情を理解し、エンパワーするための支援が述べることができる。</li> <li>5. 対象の状況に合わせ、助産師として行うべきことが想起できる。(levelup 目標)</li> </ol>			

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	大垣	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩とは(概念)</li> <li>2. 助産師が行う分娩期のケア 主体性の尊重 苦痛緩和と胎児のストレス軽減 家族中心のケア</li> <li>3. 分娩期における助産師の役割・責務 「助産師の役割・責務」から読み解く 分娩に関する記録等</li> </ol>		
2 ・ 3	大垣	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩経過に必要な知識 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 正常分娩とは</li> <li>2) 分娩の3要素</li> <li>3) 分娩経過と所要時間</li> <li>4) 分娩の機序</li> <li>5) 分娩が母体・胎児に及ぼす影響</li> </ol> </li> </ol> <p>キーワード: 分娩の種類 正常の定義 陣痛 産道 分娩経過 フリードマン曲線 回旋 所要時間 経産婦 初産婦 内診所見 教材: 胎児骨盤ミニ</p>		分娩の生理 小テストの実施

4 ・ 5	丸山	<p>1. 分娩期の助産診断とアセスメントの視点 時期に応じた目標とケア</p> <p>分娩第1期 第2期 第3期 第4期</p> <p>正常分娩 所要時間 経産婦 初産婦 分娩予測</p>	講義・演習	
6	丸山	<p>1. 分娩期の診断・アセスメントの特徴と助産過程の展開</p> <p>1) 助産師が分娩期に行う診断とアセスメント</p> <p>2) 分娩期の診断とアセスメントに必要な観察技術</p> <p>3) 分娩期の診断とアセスメントの視点</p> <p>4) 分娩期の助産過程の特徴</p> <p>5) 分娩期に用いる記録</p> <p>助産診断ガイドブック</p>		<p>助産過程の展開</p> <p>「分娩期の助産診断」とタイアップ°</p> <p>助産診断・技術学Ⅲ分娩期の助産技術「フィジカルアセスメント」とタイアップ°</p>
7 ・ 8	丸山	<p>1. 各段階のアセスメントのポイント・ケアの目標およびケア計画</p> <p>1) 分娩開始</p> <p>2) 入院時</p> <p>3) 分娩第1期</p> <p>4) 分娩第2期</p> <p>5) 分娩第3期</p> <p>6) 分娩後2時間まで</p>	講義 演習	
9	斎藤	<p>1. 産婦にとっての適応と心理状態</p> <p>1) 分娩進行に伴う産婦の心理状態の変化</p> <p>2) 家族の心理・社会的変化</p> <p>2. 早期母子接触</p> <p>1) 早期母子接触の効果と留意点</p> <p>2) 新生児の健康状態のアセスメント</p> <p>3) 母親の健康状態のアセスメント</p> <p>4) 早期母子接触における観察と支援方法</p> <p>キーワード: 愛着形成 初回授乳 児の安全</p> <p>教材: テキスト①第5章</p> <p>DVD「産褥経過のアセスメントと支援 VOL1」</p> <p>キーワード: 産痛 対処行動 リード理論</p> <p>教材: ①P80～85</p>		

10	丸山	<p>1. 産婦の支援の基本</p> <p>1)産婦のニーズに沿った援助 バースプランとその活用</p> <p>2)基本的欲求の充足に向けた援助</p> <p>3)分娩を正常に進める援助</p> <p>(1)産痛緩和</p> <p>(2)分娩を進行させる援助・進まないときの援助</p> <p>(3)呼吸法と努責の誘導</p> <p>(4)胎児の健康状態の診断と機能不全が起きた時の対応</p> <p>2. ケアの実施と助産過程</p> <p>キーワード: 3 要素 分娩の進行</p> <p>母児の健康状態の診断</p>		Ⅲと連動
11	丸山	<p>附属物の観察項目と診断</p>	演習含む	
12	小林	<p>出生直後の新生児のアセスメントとケア</p> <p>1. 新生児のアセスメントとケア</p> <p>1)生後 24 時間以内の新生児のアセスメントとケア</p> <p>出生前の予測 出生直後の状態の評価と支援</p> <p>異常の早期発見と支援 成長・発達の評価と支援</p> <p>2)早期新生児(生後 7 日目まで)のアセスメントとケア</p> <p>胎外環境適応状態の評価 成長・発達の評価</p> <p>異常の早期発見と支援</p> <p>キーワード:胎児期 分娩侵襲 胎外環境適応</p> <p>アップガースコア 全身の系統的観察</p> <p>異常の早期発見 成熟度 家族関係形成</p> <p>保温 生理的体重減少 生理的黄疸</p> <p>栄養 哺乳 退院後に向けた支援</p> <p>教材:教科書①p64～101</p> <p>配布資料</p>		<p>出生直後の新生児の観察・診断を復習しておく</p> <p>助産診断・技術学分娩期の出生直後の時のケアについて読んで授業に臨む</p>
13	さくら産院	<p>分娩胎位と分娩介助法</p> <p>様々な分娩体位での介助のポイント</p> <p>フリースタイル分娩</p>		評価外
14	大垣	<p>分娩期の知識の整理</p> <p>分娩の3要素 分娩経過に沿った診断とケアの振り返り</p>		<p>評価外</p> <p>実習終了時</p>
15		<p>単位認定試験</p>		

<p>使用テキスト</p>	<p>①助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期 第6版 医学書院          ②助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 医学書院          ③産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 日本産婦人科学会          ④マタニティ診断ガイドブック 第6版 医学書院</p>
<p>参考書・資料 等</p>	<p>助産師基礎教育テキスト 分娩期の診断とケア 2024年 日本看護協会出版会          病気がみえる⑩ 産科 第4版 メディカ出版          根拠と事故防止からみた母性看護技術 第1版 医学書院          助産師臨床テキスト 分娩 2016 メディカ出版          CG 動画でわかる！分娩のしくみと介助法 2016 メディカルビュー          分娩介助学 第2版 医学書院          図説 CTG テキスト 2016 メディカルビュー          今日の助産 改訂第3版 南江堂</p>
<p>この授業科目を前提とする主な科目</p>	<p>母性看護学 女性の心理学 助産学概論          助産師のコミュニケーション</p>
<p>この授業科目から発展する主な科目</p>	<p>助産学概論 助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期 助産診断・技術学Ⅳ産褥期          助産診断・技術学実習 助産管理実習</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>小テスト 分娩期の心理・社会的変化の課題レポート提出          単位認定試験</p>
<p>その他          受講生への要望等</p>	<p>母性看護学が基盤となるため、復習して授業に臨んで下さい。          助産師は正常か異常を判断し、分娩経過を正しく理解できる知識と必要な情報収集する能力が求められています。各期の特性や産婦の姿を具体的にイメージし、「自分が何をするのか」行動レベルで想起するためには基礎的知識の整理と、助産師の役割を果たすための様々な視点や技術を身につける必要があります。主体的に学ぶ姿勢を求めます。</p>

授業科目名	助産診断・技術学Ⅲ 分娩期の助産技術		実務経験講師	○
担当教員名	大垣江美子 丸山深雪 他		実務経験	助産師
開講年度	2026年度	学 期	前期	
年 次	—	授業回数	30 回	
単位数	1 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	<p>分娩期の助産技術は、マタニティケアを実践する上で中核ともいえる技術です。</p> <p>助産師には分娩期にある産婦・胎児および新生児が正常な分娩経過をたどることができるように支援する能力が求められます。産婦の主体性を引き出しながら、対象にとって安全で満足な分娩を目指すために知識を活用しながら適切な態度で、助産師のわざを実践するための基盤を形作る授業科目です。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常分娩を介助するための基本的技術を修得できる</li> <li>2. 分娩介助技術の一連の流れを手順通りに実施できる。</li> <li>3. 分娩 3 要素と胎児の健康状態の知識を基盤とし、経過に応じた助産技術を実践するための関連づけができる。</li> <li>4. 対象を尊重し、母児の安全を最優先にとらえ、助産師として責任ある態度を身につけることができる</li> </ol>			

#### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1 2	大垣	<p>分娩期の助産技術の概要</p> <p>1. 分娩期の助産技術とは</p> <p>1) 分娩期助産ケアの目標(全体・各期)</p> <p>2) 分娩期に助産師が用いる技術とは何か</p> <p>2. 分娩を取り扱う助産師の役割と構え</p> <p>1) 直接介助者 2) 間接介助者</p> <p>3. 分娩期の産婦の様子と助産師の役割(例示)</p> <p>キーワード: 分娩介助 意義 原理 安全 環境</p> <p>分娩台操作</p>	講義 演習	母性看護学および助産診断・技術学Ⅱ分娩期の知識と連動させながら学習する。
3	大垣 丸山 斎藤	<p>分娩期の助産技術と助産師のケア</p> <p>分娩開始時</p> <p>入院受け入れ</p> <p>分娩第1期～分娩第2期</p> <p>ファントームの使い方 胎児娩出シミュレーションを含む</p>	演示	リフレクション

4 5	大垣	<p>分娩期に用いる助産技術</p> <p>1. 診察技術(外診 陣痛測定 児心音聴取 内診など)</p> <p>どのように実施するのか</p> <p>どのような時に実施するのか</p> <p>診察技術をどのように活用するか</p> <p>→ 助産診断・分娩予測 産婦への対応</p> <p>2. 分娩に向けた準備(対象・物品・環境・介助者)</p>	講義 演習	前時の分娩期の助産ケアの目標を念頭に、何を指して実施するのかを結びつけながら学ぶ。分娩期の助産診断と関連付ける。
6	大垣	<p>分娩第1期の助産ケア ①入院前～入院時</p> <p>入院時に診断することと用いる技術</p> <p>産婦の心理に応じた関わり</p> <p>入院時オリエンテーション(内容とポイント)</p>	演習 講義	入院時の心理・分娩開始時期の観察ポイントを念頭に学ぶ
7 8	丸山	<p>分娩第1期の助産ケア ②第1期経過中</p> <p>1. 基本的欲求の充足</p> <p>1)活動・姿勢 2)排泄 3)清潔</p> <p>2. 産痛緩和とリラクゼーション</p> <p>3. 分娩進行を促進する技術</p> <p>4. 破水時の観察と処置</p> <p>5. 胎児の健康状態と観察</p> <p>キーワード: バースプラン 安楽性 基本的欲求の充足</p>	演習	<p>事例を用いて計画立案～実施</p> <p>第1期の生理的变化をイメージしながら学ぶ</p>
9 10	大垣	<p>分娩第1期の助産ケア ③第1期～第2期への移行期</p> <p>1. 分娩に向けた産婦と物品の準備・環境整備</p> <p>2. 産婦の移動とセッティング</p> <p>実施の判断(タイミング)と方法・留意点</p> <p>1. 産婦の準備(外陰部消毒、分娩野の準備)</p> <p>2. 直接介助者の準備(ガウン・マスク 滅菌手袋の装着など)</p> <p>キーワード:環境 分娩台 必要物品 産婦 直接介助者</p> <p>間接介助者 プライバシー保護 安全</p> <p>教材:分娩介助手順 ②P193～195</p>	演習	
11 12 13	各教員	<p>【練習～個別確認】 第9.10講目の内容</p> <p>物品(分娩セット)の準備</p> <p>外陰部消毒</p> <p>分娩野の準備</p>	演習	

14 15	大垣	<p>分娩第2期の技術 ①児娩出まで</p> <p>1. 第2期の進行の見方と助産師が実施すること 進行に応じた観察 安全な娩出のための手技 第2期を円滑にすすめるための声掛け 胎児の健康状態の観察</p> <p>キーワード: 肛門保護 会陰保護 後頭結節 胎児機能 第3回旋 第4回旋 肩甲娩出 骨盤軸</p> <p>教材: 分娩介助手順 P7, 9~15 児頭娩出機</p>	講義 演習	<p>第2期の経過を頭に入れて臨む。</p> <p>児頭の下降・回旋はどのように推移するかイメージ。</p> <p>授業終了後、ワークシート記載する。</p>
16 17 18	大垣 丸山	<p>分娩第3期の技術</p> <p>1. 出生直後の児のケア 観察(一次診査)とケア(呼吸の確立と保温)</p> <p>2. 胎盤娩出の介助 娩出の方法 胎盤一次診査</p> <p>3. 母体のケア</p> <p>1) 子宮収縮・産道の損傷の診査 2) 出血量の確認 3) 外陰の手当て 清拭更衣</p> <p>分娩第4期の技術</p> <p>1. 分娩後1時間値・2時間値の観察 2. 胎盤の精査</p> <p>キーワード: 児娩出 気道確保 臍帯結紮 臍帯切断 胎盤剥離徴候 子宮収縮 産道診査</p> <p>教材: 分娩介助手順 P16~19</p>	講義 DVD 演習	<p>技術確認のチェック項目に沿って練習する。</p> <p>授業終了後、ワークシート記載する。</p> <p>実習記録(分娩総括)に沿って記載する</p>
19 20 21 22	各教員	<p>【練習～個別確認】 第14. 15講目の内容</p> <p>分娩第2期～4期に必要な助産技術</p>		
23 24	大垣 渋谷	<p>【実習前のプラスアルファ】変化に応じて実施する技術</p> <p>導尿 臍帯巻絡時の対応 人工破膜 切開後の会陰保護の方法 吸引分娩 胎児の状態に応じた対応(酸素吸入・急速遂娩など)</p>	演示	<p>最終技術確認試験に向けてチェック項目に沿って練習する</p>

25		総合試験オリエンテーション 準備		評価表、ワークシート記載
26		総合技術確認試験 産婦の進行を提示		
27		時間内にアセスメントし、準備～産道診査までの実施		
28		(教室→教員の質問に答えながら実施)		
29		総合試験 解説		
30		筆記試験 演習準備など		

使用テキスト	①助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 分娩・産褥期 第6版 医学書院 ②産婦人科診療ガイドライン 2023 日本産婦人科学会
参考書・資料 等	分娩介助学 第2版 医学書院 助産師基礎教育テキスト 分娩期の診断とケア 2020版 日本看護協会出版会 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第1版 医学書院
この授業科目を前提とする主な科目	基礎看護学 母性看護学 助産師のコミュニケーション 女性の心理学 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期
この授業科目から発展する主な科目	助産診断・技術学Ⅱ分娩期 助産診断・技術学Ⅳ 産褥期 助産診断・技術学Ⅴ新生児期 助産診断・技術学実習
成績評価の方法	区切りごとの技術確認 取り組み態度 到達度など 総合技術確認試験 80点 筆記試験 20点  総合試験の合格を助産診断・技術学実習開始の前提条件とする
その他 受講生への要望等	臨地実習では無資格である皆さんが、実際に分娩介助を実施するため、練習を行って技術を習得することは、助産学生の責務として必須です。分娩介助は医療行為のひとつであり、人命にかかわる重要な技術であるため、「技術を経験した」レベルではなく「手順通りできるようになった」ことを個々人に求めます。そのため科目の構成として、「練習～個別確認」のコマを入れ、一人ひとりが細部まで技術を身につけられるよう授業時間に組み込んでいます。 分娩の経過や三要素、解剖生理などの基本的な知識と、各期における産婦の変化をイメージし、時期や状態に応じて何を考え行動するかの基本を、技術を中心に身につける科目です。 科目の最終盤には総合試験を実施し、他科目での学びと統合し、考えて行動できるようになったことを確認したうえで実習へとつなぎます。 助産師の判断・行動が対象の安全に大きく影響する場面の技術です。演習においても常に緊張感をもって臨んで下さい。

授業科目名	助産診断・技術学Ⅳ 産褥期		実務経験講師	○
担当教員名	持田 益身 齋藤 美玖 他		実務経験	助産師
開講年度	2026年度	学 期	通年	
年 次	—	授業回数	15 回	
単位数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	<p>出産を無事に終えた褥婦は新しい命の誕生という喜びと共に、自身の身体を回復させながら、新生児を育ていく役割が生じます。助産師として、褥婦の心身の健康水準を診断し、産褥期をより健康に過ごし育児を中心とする日常生活に適応できるように支援する能力が求められます。</p> <p>更に、近年の出産の高齢化・少子化により育児への適応が困難な褥婦が増加に伴い、産後のメンタルヘルスが重要視されている中で、助産師は子育ての開始時期にある女性と家族に寄り添うための視点とケアが求められます。</p> <p>この科目を基盤に臨地実習において、助産師として必要な能力である褥婦や家族の心身の状態を診断し、支援する知識・技術を修得することを目的とする授業科目です。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.正常な褥婦がたどる産褥期の身体的・心理社会的変化について説明できる。</li> <li>2.正常な産褥期の経過を診断するための観察の技術を修得する。</li> <li>3.正常に経過するために必要な支援がわかり、方法を身につけることができる。</li> <li>4.産褥期に必要な育児技術を修得し、対象への段階的な獲得について手段を考察できる。</li> <li>5.新たな経験に向き合う対象をエンパワーするための視点や方法を述べられる。</li> <li>6.新たな家族を迎えた対象および家族の心情を踏まえ、役割獲得と家族関係調整の必要性や支援の方法を述べられる。</li> <li>7.産褥期に起こりうるメンタルヘルスの不調について、産後ケアの必要性や実際と関連付けて理解することができる。</li> </ol>			

#### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1 2	齋藤	産褥とは 重要事項の確認 対象がたどる過程 産後の女性に起こること 分娩に伴う入院期間 退院～家庭／社会への復帰 産褥期における助産師の役割 助産師の視点と助産診断	反転学習 解説	基礎テスト 母性看護学で既習した 生理的变化

3	大下	<p>1. 産後の経日的変化のアセスメントと目標</p> <p>1) 変化する優先順位</p> <p>2) 母児同室～退院まで</p> <p>2. 退院後を視野に入れた支援</p> <p>退院後の生活とアセスメントの視点</p> <p>産後 2 週間健診 1 か月健診</p>		助産過程と連結
4 5	持田	<p>2. 産褥期の経過と支援の方法</p> <p>1) 分娩を終えた女性の身体の変化</p> <p>(1) 妊娠・分娩との連続性</p> <p>(2) 産褥期の全身の変化の特徴</p> <p>(3) 産褥期の局所的な変化と特徴</p> <p>(4) 産褥期に起こりやすいマイナートラブル</p> <p>2) 産褥期の変化に対する支援</p> <p>退行性変化の促進因子と阻害因子 促進の方法</p> <p>進行性変化の //</p> <p>3) 産後の生活に関する支援</p> <p>キーワード: 全身の変化 退行性変化 進行性変化</p>		ワークシートを完成させながら産褥期の全体像を形作っていきます。母性看護学の産褥期の看護がベースとなります。
6 7	持田	<p>1. 産褥期の心理・社会的変化</p> <p>1) 心理的特徴と影響要因</p> <p>バースレビュー 出産体験の自己評価</p> <p>(1) 必要性 (2) 留意点 (3) 実施方法</p> <p>2) エルファの変化 アイデンティティ再構築</p> <p>3) 児の愛着・絆形成と母親役割への適応</p> <p>4) 褥婦の不安と育児困難感</p> <p>5) 家庭・地域・社会生活復帰への支援</p> <p>2. 褥婦の日常生活行動の充足と適応</p> <p>3. 家族の形成と社会的変化</p> <p>キーワード: 育児不安 バースレビュー 愛着形成 絆 自己肯定感 マタニティブルーズ</p> <p>家族 母親役割 父親役割 発達危機</p> <p>教材: テキスト①第 10 章</p>	講義 グループワーク	同上

8	大下	<p>1. 育児行動獲得への支援</p> <p>1) 育児技術の獲得に向けた支援とその方法</p> <p>2) 育児に適応するための保健指導のポイント</p> <p>キーワード: 母親役割 父親役割 家族 育児</p> <p>セルフケア 産後ケア事業</p> <p>教材: テキスト①第 12 章</p>		
9 10	大下他	<p>1. 褥婦のフィジカルアセスメントと助産診断</p> <p>1) 産褥期健康診査の意義と必要な技術</p> <p>子宮体部 外陰 悪露</p> <p>2) 全身状態の回復過程の確認とアセスメント</p> <p>3) 創傷治癒を含む生殖器の回復過程の確認</p> <p>4) 乳房・乳頭のアセスメント</p> <p>5) 乳汁産生のアセスメント</p> <p>2. 産褥期の助産診断との関連性</p> <p>キーワード: 子宮復古不全 乳房・乳頭のトラブル</p> <p>教材: テキスト①第 11 章 テキスト④第IV章</p>		
11	持田	<p>2. 褥婦の心理</p> <p>2) マタニティブルー</p> <p>3. 産後うつの診査</p> <p>1) エジソン産後うつ病質問表 (EPDS)</p> <p>2) 赤ちゃんへの気持ち質問表 (ボンディング)</p> <p>3. さまざまな状況の褥婦の心情を考える</p> <p>キーワード: パーソルビュー EPDS 産後うつ病</p> <p>教材: テキスト①第 11 章 テキスト④第IV章</p>		<p>事前学習(ワークシート)</p> <p>産褥期の心理的变化</p> <p>出生直後の心理</p> <p>マタニティブルー・産褥精神疾患</p> <p>事後学習</p> <p>①演習での学びと課題</p> <p>グループワークでの褥婦の心情のまとめ</p> <p>制度について予習</p>
12	持田	<p>帝王切開を受けた褥婦の支援</p> <p>手術に至るプロセスと褥婦の心理</p> <p>経膈分娩との違いが産褥期にもたらす影響</p> <p>経日的な変化とアセスメントのポイント</p>	<p>講義</p> <p>演習</p>	<p>母性看護学「帝王切開を受けた褥婦の看護」を復習の上臨む</p>
13	竹田 省	<p>妊産褥婦のメンタルヘルス</p>	<p>講義</p>	<p>評価外</p> <p>助産学生合同研修</p>
14	鳥内	<p>1. 産後ケア</p> <p>1) 産後ケアが必要とされる背景 2) 産後ケアの実際</p> <p>キーワード: 高齢出産 核家族 虐待 産後うつ</p> <p>教材: テキスト①第 12 章</p>	<p>演習</p>	

15	単位認定試験		
----	--------	--	--

使用テキスト	<p>① 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩・産褥期 医学書院</p> <p>② 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 医学書院</p> <p>③ 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 日本産婦人科学会</p> <p>④ 助産師のためのフィジカルイグザミネーション第 2 版 医学書院</p>
参考書・資料 等	<p>女性に寄り添う看護シリーズ メディカ出版</p> <p>マタニティ診断ガイドブック 第 6 版 医学書院</p> <p>今日の助産 改訂第 3 版 南江堂</p> <p>母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 医学書院</p>
この授業科目を前提とする主な科目	<p>基礎看護学 母性看護学 助産学概論 助産師のコミュニケーション 家族社会学</p> <p>女性の心理学</p> <p>女性の健康科学 助産診断・技術学Ⅰ妊娠期 Ⅱ分娩期</p>
この授業科目から発展する主な科目	<p>助産診断・技術学Ⅴ新生児期 母乳育児支援</p> <p>助産診断・技術学実習 地域母子保健実習</p>
成績評価の方法	<p>筆記試験(単位認定試験) 80%</p> <p>レポート課題 10%</p> <p>演習後課題 10%</p>
その他 受講生への要望等	<p>褥婦や家族への支援は、助産師として重要な役割の一つです。知識・技術をしっかりと修得して、助産学実習で活用できるようにしましょう。</p>

授業科目名	助産診断・助産学Ⅴ 新生児期		実務経験講師	○
担当者名	矢田ゆかり 俣野美雪 佐々木裕美 他		実務経験	医師 助産師
開講年度	2026年度	学 期	通年	
年 次	－	授業回数	15 回	
単位数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	<p>新生児の健康状態の診断、正常からの逸脱を識別するために必要な新生児および乳幼児の異常に関する基礎的な知識(疾患と病態)を学びます。加えて、新生児の成長と発達、およびその評価方法を学修します。また、家族と家族関係、母性・父性の心理的・社会的特徴を基盤として育児支援に必要な知識を学修します。</p> <p>正常経過を逸脱、治療を要する新生児およびハイリスク新生児のアセスメントとケアとその後のフォローアップについて学ぶとともに、新生児蘇生法について知識と実技実践を学修します。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児の身体的特徴および生理的特徴が説明できる</li> <li>2. 新生児の助産診断ができ、必要な支援を計画できる</li> <li>3. 正常経過を逸脱し治療を要するハイリスク新生児のアセスメントとケアを述べるができる</li> <li>4. 乳幼児期の疾患について症状・検査・治療・予後を系統的に理解できる。</li> <li>5. 新生児/の健康診査の内容と方法を理解し自施円の基盤となる手技を習得する。</li> <li>6. 新生児蘇生法について知識と実技実践を修得する</li> </ol>			

## 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	佐々木	<p>1. 新生児の適応生理と成長・発達</p> <p>1) 新生児の定義</p> <p>2) 各機能の生理的变化と胎外生活への適応</p> <p>呼吸器・循環器・体温調節・肝機能・消化器系</p> <p>水分/電解質バランスと腎機能・免疫系・感覚器</p> <p>キーワード: 新生児 適応生理 成長・発達 呼吸確立</p> <p>教材: 教科書①</p>	講義	母性看護学の新生児の生理と呼吸・循環動態の復習し、授業に臨む
2	佐々木	<p>1. 正常経過逸脱状態にある新生児の診断</p> <p>1) 正常経過逸脱状態</p> <p>呼吸障害 チアノーゼ 嘔吐・腹部膨満</p> <p>吐血・下血 痙攣 麻痺 発熱と低体温</p> <p>心雑音 なんとなく元気がない</p> <p>キーワード: 病態・生理 診断・治療</p> <p>新生児の正常と異常</p> <p>教材: 教科書①</p>	講義	

3 ・ 4	丸山	<p>新生児のアセスメントの視点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生後24時間以内 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出生前からの状態予測(胎児期・分娩侵襲によるリスク)</li> <li>2) 出生直後の適応評価</li> <li>3) 成長・発達の評価</li> </ol> </li> <li>2. 生後7日目まで <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日齢に応じた変化 2) 健康状態</li> <li>3) 成長発達の評価</li> </ol> </li> <li>3. 新生児の健康生活診断</li> <li>4. 日齢に応じた助産診断</li> </ol> <p>教科書p64～101 マタニティ診断ガイドブックp156～</p>	講義	
5 ・ 6	丸山	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出生直後の健康診査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出生直後のフィジカルイグザミネーション</li> <li>2) 身体計測のフィジカルイグザミネーション</li> </ol> </li> <li>2. 新生児の健康診査の演習</li> <li>3. 新生児に関わる技術 1) クベースの使い方</li> </ol> <p>キーワード: フィジカルアセスメント 新生児の特徴 バイタルサイン測定 原始反射</p> <p>教材: 助産師のためのフィジカルイグザミネーション</p>	演習	演習には、新生児の健康診査の観察項目と正常値を理解し、演習に臨む
7		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児のおもな疾患とケア <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新生児の異常徴候</li> <li>2) 新生児の疾患</li> </ol> </li> </ol> <p>キーワード: 胎児発育異常 呼吸障害 チアノーゼと心不全 嘔吐と腹部膨満 新生児けいれん 病的黄疸他</p> <p>教材: 教科書① 配布資料</p>	講義	新生児異常について予習し授業に臨む
8		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 低出生体重児の病態と治療 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 低出生体重児の定義</li> <li>2) 低出生体重児の特徴</li> <li>3) 低出生体重児に起こりやすい合併症 4) 予後</li> </ol> </li> </ol> <p>キーワード: 低出生体重児 合併症</p> <p>教材: 教科書①</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 乳幼児のおもな疾患とケア <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳幼児の感染症 アレルギー疾患</li> <li>2) 発育障害</li> <li>3) 乳幼児突然死症候群</li> </ol> </li> </ol> <p>教材: 教科書 配布資料</p> <p>キーワード: ウイルス感染症 細菌感染症 予防接種 栄養障害 SIDS</p>	講義	乳幼児に起こりやすい疾患について予習し授業に臨む

9 ・ 10	佐藤	<p>1. ハイリスク新生児の援助</p> <p>1)ハイリスク因子のアセスメント 2)援助の基本 3)低出生体重児のケア 4)治療を受ける新生児のケア 5)家族へのケア 6)新生児の急変時の判断と対応 7)NICUにおける看護</p> <p>キーワード:ハイリスク NICU 蘇生 発育発達予後 母体搬送 新生児搬送 予防的ケア 家族への支援</p> <p>教材:教科書① 配布資料</p>	講義	NICU について予習し授業に臨む
11		<p>1. 新生児蘇生法</p> <p>1)新生児仮死の病態および評価</p> <p>キーワード:予後フォロー 家族支援</p> <p>教材:教科書① テキスト③</p>	講義	新生児蘇生法テキストを熟読し、巻末の問題を練習した上で授業に臨む
12 13 14		<p>1. 新生児仮死と蘇生法</p> <p>1)蘇生のステップと新生児蘇生の実際 (新生児蘇生 B コース認定講習)</p> <p>キーワード:新生児仮死 無呼吸 蘇生 蘇生法アルゴリズム NCPR ガイドライン</p> <p>教材:教科書① テキスト③</p>	講義 演習	<p>新生児蘇生法テキストを熟読し、巻末の問題を練習した上で授業に臨む</p> <p>講義開始直前にプレテスト実施あり。 講義後、認定試験実施となる。</p>
15		単位認定試験		試験

使用テキスト	<p>①助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児・乳幼児期 第6版 2025 医学書院</p> <p>②助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 第6版 2025 医学書院</p> <p>③新生児蘇生法テキスト 日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 第4版 メジカルレビュー</p> <p>④助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 医学書院</p>
参考書 (参考資料等)	<p>①助産師基礎教育テキスト[6]産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア 2020 日本看護協会出版会</p> <p>②助産師基礎教育テキスト[7]ハイリスク妊産婦・新生児のケア 2020 日本看護協会出版会</p> <p>③UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 2009 医学書院</p> <p>④マタニティ診断ガイドブック 第6版 医学書院</p> <p>⑤今日の助産 改訂第3版 南江堂</p>
この授業科目の前提 となる主な科目	<p>母性看護学 小児看護学 助産師のコミュニケーション 助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期 助産診断・技術学Ⅳ 産褥期 助産診断・技術学実習 助産管理実習 地域母子保健実習</p>
この授業科目から発 展する主な科目	<p>助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期 助産診断・技術学Ⅳ 産褥期 地域母子保健</p>
成績評価の方法	<p>筆記テスト(単位認定試験)100点</p>
その他 受講生への要望等	<p>出生直後の新生児の健康状態は生命を左右します。そのため助産師は、出生前から予測し、正確なアセスメントをするために、知識と技術を身につける必要があります。</p> <p>新生児蘇生 B コースについては事前学習が認定合格の鍵となりますので、準備して臨みましょう。</p>

授業科目名	助産診断・技術学VI ハイリスクと異常		実務経験講師	○
担当者名	持田 益身 大垣江美子 泉 章夫 高橋 宏典他		実務経験	医師 助産師
開講年度	2026年度	学 期	通年	
年 次	—	授 業 回 数	21回 + 試験2回(医師・助産師)	
単 位 数	2単位	単位時間数	45 時間	
授業科目の概要	<p>早産をはじめとする異常分娩や低出生体重児の出生などハイリスク妊産褥婦の割合は増加の一途をたどっている。助産師は正常(ローリスク)妊産褥婦の健康診査と保健指導を主要業務としているが、正常から逸脱した場合(ローリスク含む)、身体的・精神的・社会亭問題が複雑かつ深刻な状況下での助産診断の実施や、緊急時の初期対応および重症化の予防など専門的なケアが求められる。この科目では、周産期各期におけるハイリスク～異常に関する病態や医療管理について医師から、さらに、正常からの逸脱(ローリスク含)を判断し、異常を予測する臨床推論および診断、妊産褥婦が直面する状況に対する助産ケアや保健指導については助産師から、職種間の連携を前提に学習する。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠分娩産褥期の異常・ハイリスクについて、定義・病態・医療的管理について正常な状態と対比したうえで理解できる。</li> <li>2. 正常を逸脱した場合(ローリスク含む)に対象者が受ける影響を推測し、助産師として身体的、精神的、社会的なケアを行うための過程(観察・判断・状況に合った対応)を説明することができる。</li> <li>3. 対象が常に移行の中に存在することを念頭に、正常逸脱(ローリスク)の徴候やそれに気づくための臨床推論能力を身につけることの重要性を自覚することができる。</li> <li>4. 複雑・深刻な状況に置かれる対象者や家族の心情を察し、倫理的な思考のもとに寄り添うことの必要性を述べることができる。</li> </ol>			

#### 授業スケジュールと内容

回	教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1 2	和地	I. 妊娠期の異常 1. 妊娠疾患 2. 妊娠持続期間異常 3. 着床異常 4. 胎児の異常 5. 子宮内胎児死亡 6. 胎児附属物の異常  テキスト①	講義	
3 4	高橋	II. ハイリスク妊娠 1. 偶発合併妊娠 2. 母子感染症  テキスト①	講義	

5 6 7 8	持田	III. ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦のアセスメントとケア 1. ハイリスク妊娠と助産師の役割 2. 正常逸脱の早期発見のためのアセスメントと支援 3. 周産期医療体制における役割分担と協働 キーワード: ハイリスク因子 緊急時の対応 職種間連携 保健指導 テキスト①	講義	
9 10	泉	IV. 分娩期の異常・偶発疾患 1. 分娩の3要素の異常 2. 分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症 キーワード: テキスト②	講義	
11 12	今井	V. 産科手術および産科的医療処置 1. 産科手術の準備 2. 産科手術および産科医療処置の各論 3. 産科麻酔 4. 救急処置 キーワード: テキスト②	講義	
13	斎藤	無痛分娩を受ける産婦への支援	講義	
14 15	大垣	VI. ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援 1. アセスメント 2. 産婦への支援 帝王切開になる産婦のケア(予定・緊急) 微弱陣痛 回旋異常 胎児機能不全 娩出力異常 吸引分娩 分娩に伴う損傷とケア 吸引分娩・無痛分娩時の対応 分娩時異常出血 産科ショック	講義	
16	渡辺	VII. 産褥期の異常・偶発疾患 1. 産褥期に起こる身体的な問題	講義	
17 18	持田	IX. ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援 1. アセスメント 2. ハイリスク・異常褥婦への支援	講義	
19 20	持田	X. 特殊な状況にある褥婦への支援 特定妊婦 多胎児を育てる親のケア 健康上の問題のある児をもつ褥婦 子どもを亡くした親のケア	講義	

21	持田	XI. 会陰切開および裂傷後の縫合	演習	評価外
22		単位認定試験 ①医師		
23		単位認定試験 ②助産師		

使用テキスト	①助産学講座6 助産診断・技術学2[1]妊娠期 医学書院 ②助産学講座7 助産診断・技術学2[2]分娩期・産褥期 医学書院
参考書・資料等	産婦人科診療ガイドライン 2023 今日の助産 第4版
この授業科目の前提となる主な科目	解剖生理学 薬理学 母性看護学 女性の健康科学 助産学概論 助産師のコミュニケーション 助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期 助産診断・技術学Ⅳ 産褥期
この授業科目から発展する主な科目	助産学実習
成績評価の方法	筆記試験 ①医師の範囲:1回 100点 ②助産師の範囲:1回 100点
その他 受講生への要望等	<p>周産期は、正常と異常が隣り合う変化の激しい時期です。わずかな徴候に気づけるか気づけないか(臨床推論)そばにいる助産師の知識と診断能力に委ねられます。</p> <p>この科目で学ぶことは実習を始めとし、将来臨床実践に携わる上で身につけておいてほしいハイリスクと異常に関する基礎的事項です。</p> <p>正常な経過や生理的变化の知識をベースに、正常からの逸脱を判断し、異常を予測する臨床推論ができる能力を身につけるために、計画的に学習することを望みます。</p>

授業科目名	助産過程の展開		実務経験講師	○
担当教員名	赤坂 宏美 丸山 深雪 持田 益身 他		実務経験	助産師
開講年度	2026年度	学 期	前期・後期	
年 次	—	授業回数	15 回	
単位数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	<p>問題解決思考をベースとした思考過程を用いることで、対象の個別性や状況に応じた助産ケアを実践する道筋が作れます。助産師としての役割を遂行するために、各期の対象の特性をイメージし、アセスメント～評価までの思考を言語化する訓練を行う科目です。また、この科目では、助産過程を用いて実践に即したシミュレーション学習も行います。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.助産ケアを実践するための助産過程の概要を説明できる。</li> <li>2.助産の対象の特性と診断類型を踏まえた情報収集の視点や方法が説明できる。</li> <li>3.診断の前提としたアセスメントの視点がわかり、分析したことを言語化できる。</li> <li>4.各期の助産診断の特徴がわかり、ガイドブックを用いた診断ができる。</li> <li>5.実践で求められるスピードを意識しながら、対象理解、現状分析、助産診断に基づき一貫性のある目標と、優先順位を加味した具体策が立案できる。</li> <li>6.助産師の役割責務に基づく実施・評価の視点が説明できる。</li> <li>7. 助産過程のプロセスを用いて限られた時間内でポイントを押えた記述ができる(演習)。</li> <li>8.臨床場面に即した状況の中で、既習の知識技術を用いて、シミュレーションが実践できる。</li> </ol>			

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	赤坂	<p>1.助産過程とは</p> <p>2.助産師の役割・行動と直結する助産過程 助産師が診断し、介入すること(役割にもとづく展開)</p> <p>3.助産診断の特徴と診断類型 キーワード 助産師 マタニティスクア ウェルネス型診断 配布資料:助産過程展開のためのガイドライン 参考:ウエルネスの視点に基づく母性看護過程 第4版</p>	<p>講義</p> <p>演習</p>	
2 3	赤坂	<p>1.事例から考察する助産過程の特性 診断を前提としたアセスメント 経過と診断すべきことの関係性</p> <p>1)経過に応じた情報収集 対象を理解することの重要性 2)情報の整理・分析・解釈 基礎情報 情報収集のポイント 配布資料:助産過程展開のためのガイドライン</p>	<p>講義</p> <p>演習</p>	

4 5	赤坂	<p>2. 事例 診断のプロセス</p> <p>1) マタニティ診断 各期の助産診断の特徴と診断類型</p> <p>2) 助産師の判断と助産診断の関係 時期診断・予測診断が重要なのはなぜか 経過診断／健康生活診断 診断上のルール アセスメントー診断の関係性</p> <p>3. 計画(目標・具体策)のプロセス 状況に応じた目標設定とは アセスメントと目標の関係性</p> <p>4. 実施～評価のプロセス 配布資料: 助産過程展開のためのガイドライン 今日の助産 第3版</p>		シンプル事例で情報～評価までを
6	丸山	<p>展開する上での着眼点とアセスメントのポイント</p> <p>1) 基礎情報 2) 妊娠経過</p>	演習	
7 8	森川	<p>妊娠期の助産診断と展開のポイント</p> <p>1) 情報収集と分析(基礎情報・妊娠経過) 2) 妊娠期の助産診断(初期・中期・後期) 3) 妊娠期の目標設定～評価の視点 4) 妊娠期からはじまる継続支援の考え方</p> <p>事例を用いた考え方の訓練事例をもちいた対象理解① 観察ポイント 情報整理 助産診断 必要なケアの判断事例をもちいた対象理解②</p>	講義 グループワーク	助産診断・技術学 I 妊娠期と連結
9 10 11	丸山	<p>分娩期の助産診断と展開のポイント 事例を用いた考え方の訓練</p> <p>1) 分娩期の助産過程展開の特徴 2) 分娩期の助産診断～計画まで ①入院前 入院時 3) 分娩期の助産診断～計画まで ②分娩第1期 順調に進行する分娩 分娩が進まない場合 ③分娩第2期 ④分娩第3期 第4期の目標、計画を検討する</p>	講義 グループワーク	助産診断・技術学 II 分娩期と連結

12 13	齋藤	産褥期の助産診断と展開のポイント 事例を用いた考え方の訓練 1) 産褥期の助産過程の特徴 新生児期の助産診断と展開のポイント	反転学習 ワーク	助産診断・技術学Ⅳ 産褥期と連結
14 15	持田	1.実践からの助産過程 パワーアップ 2)実施・評価について 4. 実施のプロセス 5. 評価のプロセス 助産実践における評価の視点 キーワード: ケア計画 問題指向型診療記録 事後評価 教材:テキスト①第 11 章 テキスト②第 1 章 助産過程展開のためのガイドライン配布資料:助産過程展開のためのガイドライン	講義 演習	
		シミュレーション学習 (1)場面説明 (2)シミュレーション (3)デブリーフィング	演習	

使用テキスト	① 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩・産褥期 医学書院 ② 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 医学書院 ③ 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 日本産婦人科学会 ④ 助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ 医学書院
参考書・資料 等	女性に寄り添う看護シリーズ メディカ出版 マタニティ診断ガイドブック 第 6 版 医学書院 今日の助産 改訂第 3 版 南江堂 助産過程展開のためのガイドライン(配布資料)
この授業科目を前提とする主な科目	基礎看護学 母性看護学 助産学概論 家族社会学 女性の心理学 女性の健康科学 助産診断・技術学Ⅰ妊娠期 Ⅱ分娩期 Ⅳ産褥期 助産師のコミュニケーション
この授業科目から発展する主な科目	助産診断・技術学実習
成績評価の方法	レポート課題 15% 演習後課題 15% 事例展開 20% × 3 期(演習成果 および 提出状況) リアクションシート 10%
その他 受講生への要望等	助産過程は助産師としての役割を果たす上で欠かすことのできない思考過程です。 看護過程をベースに、対象の特性を踏まえた助産師の視点やケア実践のために、自ら考え、実践したことに責任をもって振り返るまでの過程を身につけてほしいと願っています。

授業科目名	健康教育の技術	実務経験講師	○
担当者名	◎赤坂 宏美 川村 理恵 他	実務経験	助産師
開講年度	2026年	学 期	通年
年 次	—	授業回数	23 回
単位数	2単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	<p>この授業科目では助産師にとって主要な役割のひとつである健康教育・相談技術について学修します。健康教育は対象の意識・行動変容を促す目的があり、高いコミュニケーション能力が求められます。この科目で学ぶ基盤には助産師として対象をエンパワーしながら、意思決定に寄り添うための関係性の構築が含まれており、学習者として自己研鑽を続けることを意識しながら、実践の場で活用できる技術を身につけてほしいと考えています。</p> <p>また、この授業科目では演習としてリプロダクティブヘルスに関する課題を焦点化し、グループでの健康教育の企画運営の実践を行います。「伝えたいこと」は何かを明確にした上で、なぜこのクラスを実施するのか、対象にどのように変容を促すのか、その方法はなど、企画を通して、一貫性のある健康教育のプログラムの技術と、人に伝えるための技法についても、体験を通して身につけていきます。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産師として健康教育を行う意義・目的・目標について説明できる。</li> <li>2. 効果的な健康教育を実施するための企画・運営のプロセスを演習を通して実践できる。</li> <li>3. 個別指導における自己決定支援のあり方について考察し、体得する手がかりができる。</li> <li>4. 専門職として「伝える」ことへの責任を自覚し、役割を果たすための自己研鑽の必要性を言語化できる。</li> <li>5. 健康教育の企画運営を通して、メンバー間での連携・協働ができる。</li> </ol>		

## 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	赤坂	ガイダンス 健康教育とは 健康教育の定義 ヘルスプロモーション 健康教育の目的・目標、対象と場 キーワード：健康 行動変容モデル インパワメント	講義	
2	川村	相談・教育の基礎 対象理解 相談・教育の理論的基盤 学習の理論 キーワード：教える 学ぶ 意思決定支援 集団指導 個別指導	講義	
3	川村	教育技術の基本 健康教育の実際 教科書	講義	

4	川村	<p>相談・教育の方法</p> <p>個人相談の方法 場に応じたアプローチ</p> <p>集団指導 特徴 基本的機能 方法</p> <p>個別相談との違い</p> <p>特定の教育場面におけるアプローチ</p>	講義	
5 ・ 6	川村	<p>ライフサイクル各期の相談・教育活動(1)</p> <p>思春期女性の特徴</p> <p>性と生殖に関する健康教育</p> <p>キーワード:アイデンティティ</p> <p>月経 貧血 性教育 性行動</p> <p>教材:教科書(助産診断・技術学Ⅰ)</p>	講義	事前配布の「月経障害で悩む女性への支援」を熟読し講義に臨む
7	川村	<p>ライフサイクル各期の相談・教育活動(2)</p> <p>成熟期女性の特徴</p> <p>ライフプランを考慮した健康支援</p> <p>成人期に関連する健康問題と援助</p> <p>キーワード:家族計画 子宮頸がん検診</p> <p>性感染症 人工妊娠中絶</p> <p>教材:教科書(助産診断・技術学Ⅰ)</p>		事前配布の「成熟期女性のケア」を熟読し講義に臨む
8 9	川村	<p>家族計画の技術</p> <p>家族計画指導の特性</p> <p>展開の技術</p> <p>1.産後の家族計画の支援</p> <p>1)産後の性生活</p> <p>2)家族計画実施での配慮</p> <p>3)受胎調節の指導</p> <p>キーワード:産後の生理的变化 家族計画</p> <p>受胎調節</p> <p>教材:テキスト①第12章</p> <p>講義 健康教育の技術「家族計画の指導」と合わせて支援のあり方を考えること</p>		
10	川村	<p>ライフサイクル各期の相談・教育活動(3)</p> <p>更年期・老年期女性への指導</p> <p>キーワード:更年期障害 骨粗鬆症</p> <p>骨盤臓器脱 尿失禁</p> <p>教材:教科書(助産診断・技術学Ⅰ)</p>		

11 12	飯高	<p>出産準備教育</p> <p>目的 内容 対象に適した方法の選択</p> <p>キーワード: 出産(育児)準備教室 バースプラン</p> <p>心身の準備 親役割 主体性</p>	講義	
13 14 15	赤坂 他	<p>健康教育の展開 演習ガイダンス</p> <p>プログラムの企画～評価まで</p> <p>保健指導を行うにあたって</p> <p>受持ちを見すえた指導計画の立案</p> <p>キーワード: テマ設定 企画書 リポダクティブヘルス</p> <p>対象 目的・目標</p>	<p>グループワーク</p> <p>文献検索</p> <p>個別指導計画の立案</p>	実習前の準備
16   17	赤坂 他	<p>健康教育の演習④ 情報を集める</p> <p>健康教育の演習⑤～⑨ 指導計画書の作成</p> <p>教材の検討</p> <p>キーワード: 順序性 時間配分</p>	グループワーク	適宜教員と確認
18 19	赤坂 他	<p>実践のプロセス(クラスリハーサル)</p> <p>ディスカッション</p> <p>修正ポイントの明確化と計画案</p> <p>キーワード: 媒体 プレゼンテーション</p>		
20   22	赤坂 他	<p>実践のプロセス(本番)</p> <p>リフレクション</p> <p>キーワード: 実践技術 振り返りの視点</p>	プレゼンテーション	
23		単位認定試験		

使用テキスト	助産学講座 5 助産診断・技術学 I 医学書院
参考書 (参考資料等)	
この授業科目を 前提とした科目	<p>教育学 心理学 社会学 公衆衛生学 人間関係論 看護学概論 基礎看護学</p> <p>助産学概論 助産診断・技術学 I 妊娠期 助産診断・技術学 II 分娩期</p> <p>助産診断・技術学 IV 産褥期 助産診断・技術学 V 新生児期 助産師のコミュニケーション</p>
この授業科目から 発展させた科目	<p>母乳育児支援</p> <p>助産学実習</p>
成績評価の方法	<p>筆記試験 60点(川村 50点 飯高 10点)</p> <p>演習 40点(参加態度 10点 グループでの計画書作成 30点)</p>
その他 受講生への要望等	演習(グループワーク)が主体の科目です。グループの一員としての自覚を持ち、参加することを望みます。

授業科目名	助産師のコミュニケーション		実務経験講師	○
担当者名	赤坂 宏美 鳥内美智代 林辺 由利子 倉田 万智子 他		実務経験	助産師 他
開講年度	2026年度	学 期	通年	
年 次	1年次	授 業 回 数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	<p>助産実践を行う前提に、対象者や共に働く医療者との距離を近づけ、実践を受け入れてもらえるような関係の構築が必要となります。身体的・心理的・社会的に揺れ動く時期にある対象の特性を踏まえ、対象を包括的に理解しながら相談に応じ、意思決定支援を行うためには「聴く力」「共感する力」「対象の感情を感じとる力」「対象のプラスの力に気づき、寄り添える力」「助産師としての思いや考えをアサーティブに発信する力」が必要となります。</p> <p>特に、対象が直面する困難に対して、支援する助産師が対象の力を知り、その力を信じて、対象者自身が自己効力感を伴った意思決定や問題解決を行う能力を獲得できるよう促すエンパワメントは、助産実践の場面のいたるところで求められる不可欠の技術となります。演習をとおして臨床で実践できる考え方やスキルを養います。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産師に求められるコミュニケーションについて理解し、対象との関係を築くことが助産実践の前提となることを説明できる。</li> <li>2. 「聴き方」「共感」について演習を通して経験し、対象者と関わる上で不可欠の技術であることを説明できる。</li> <li>3. 助産の対象がエンパワー(支援)をうける必要がある場面を想起し、かかわりのポイントや方法を考えたうえで説明できる。</li> <li>4. 対象者の自己決定を支援するための、助産師としての相談・カウンセリングに必要な技術を経験し、修得するための始点として位置付ける。</li> <li>5. 対象の内なる力(強み・持ち味・潜在意識、資源)に働きかける方法・態度を演習を通して経験し、実践の基盤に加えることができる。</li> </ol>			

#### 授業スケジュールと内容

回	講師	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	赤坂	ガイダンス 助産ケアを実践する上でのコミュニケーション 配慮について考える	講義 演習	
2	赤坂	助産の対象について考える 対象が感じていること 求めていることは何なのか 対象が自分の力に気づくことの意義	講義	
3	赤坂	医療者の目線・対象との距離 状況に合った対応とは 助産師が関わることの影響	講義	

4	林辺	女性の思いをケアに 共感するとは 気持ちを整えるための関わり	講義 演習	評価外
5	林辺	対象の状況に応じた関わり 不調を整え前を向くために	演習	評価外
6	鳥内	産後の女性を支えるためのコミュニケーション 産後の女性のこころ 産後を支える助産師の役割とスキル	講義 演習	評価外
7 8	倉田	エンパワメントの考え方と実践	講義 演習	
9 10	倉田	アサーティブなコミュニケーション	講義 演習	
11		女性のニードに求められる対応とは リプロダクティブな内容への対応（電話相談など）	講義 演習	
12	赤坂	仕事とコミュニケーション 場面に応じるということ	講義 演習	
13	赤坂	対象の意思決定と助産師の意思決定支援	講義 演習	
14 15	赤坂	女性中心のケアに基づく個別の対象とのコミュニケーション —臨地実習を通して—	演習	評価外

使用テキスト	助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院 助産学講座 5 助産診断・技術学 I 医学書院
参考書・資料等	配布資料
この授業科目の 前提となる主な科目	基礎看護学(コミュニケーション) 助産学概論 女性の心理学 助産診断・技術学
この授業科目から 発展する主な科目	助産診断・技術学の科目群 母乳育児支援 健康教育の技術
成績評価の方法	出席状況 レポート 演習リフレクション
その他 受講生への要望等	対象との関係を築く上でリードするのは助産師です。心情や状況をくみ取りながら、ニードに寄り添った支援を行うには、まずそばにいて受け入れてもらうための姿勢が求められます。 この科目では演習を行いながら、助産師として必要なコミュニケーションの基礎を学びます。

授業科目名	母乳育児支援	実務経験講師	○
担当者名	三浦 孝子 他	実務経験	助産師 保健師
開講年度	2026年	学 期	通年
年 次	—	授業回数	15 回
単位数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	<p>子育てにおいて母乳育児は、始まりの時期も継続期も、女性にとってあたたかく、適切な支援が必要となる場面です。価値観や生活が多様化する中で、子を育てる上での栄養方法に対する考え方も様々であり、妊娠中から、卒乳に至るまで、対象のニーズに寄り添いながら情報提供を行いには、科学的根拠に基づく知識と、それを伝えるコミュニケーションスキルが不可欠です。</p> <p>この科目では、国際認定ラクテーションコンサルタントによる「母乳育児支援基礎セミナー」を受講することで、母乳育児支援に携わる上での心構え、知識・技術・態度を身につけ、対象をエンパワメントしながら、必要な支援を実施する支援者に近づくための基礎を学びます。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母乳と母乳育児について、意義と重要性について根拠に用いて説明ができる。</li> <li>2. 「母乳育児成功のための 10 カ条」の意義と内容について列挙できる</li> <li>3. 母乳育児支援の実践とエンパワメントの関連性について述べるができる</li> <li>4. 「聴く」「共感する」「支える」「情報提供」のエモーショナルサポートを演習において実行できる。</li> <li>5. 母乳育児支援に携わる助産師としての責任と役割について自覚することができる。</li> <li>6. 講義終了後も、自己研鑽を重ねる意義を見つけ出すことができる。</li> </ol>		

#### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	母乳育児支援基礎セミナーガイダンス 世界の母乳育児の潮流 赤ちゃんにやさしい病院運動 キーワード：母乳育児支援のための 10 か条 BFHI テキスト：p31～42	講義・演習	テキスト該当範囲を精読
2	母乳育児支援に必要なコミュニケーションスキル 話を聴く エンパワメントする キーワード：エモーショナルサポート 共感 テキスト：p43～68	主に演習 ロールプレイ等	基礎看護学コミュニケーションについて復習の上臨む
3	妊娠中の母乳育児の推進 母乳育児に対する意識 乳房・乳頭の手入れ 特別な配慮が必要な場合の支援 キーワード：出産前教育 出産前チェックリスト テキスト：p69～98	講義 演習 モデルを招いた インタビュー	セッション終了後、なぜ母乳だけで育てることが大切なのか言語化する

4	<p>母乳育児の保護</p> <p>乳児の栄養におけるマーケティングの影響</p> <p>母乳代用品に関する世界基準</p> <p>災害時の支援</p> <p>キーワード: 母乳代用品 国際基準 利益相反</p> <p>災害時の寄付</p> <p>ページ: p99~111</p>	講義・演習	ページ該当範囲を精読
5	<p>出産の実践と母乳育児</p> <p>分娩が早期の母乳育児に及ぼす影響</p> <p>早期母子接触の重要性</p> <p>帝王切開後の母乳育児支援</p> <p>キーワード: 自己効力感 主体的な出産 早期接触</p> <p>初回授乳 出生後の母子分離</p> <p>ページ: p113~129</p>	講義・演習	ページ該当範囲を精読
6	<p>母乳育児を成功に導くための基礎知識</p> <p>赤ちゃんが乳汁を飲みとる仕組み</p> <p>乳汁産生のしくみ</p> <p>乳房各部位の名称と機能</p> <p>乳房のケア</p> <p>適切な吸着とアセスメント</p> <p>キーワード: 生理的变化 内分泌 効果的な哺乳</p> <p>ページ: p131~142</p>	講義 乳房模型、人形を用いた演習	乳房の解剖生理 進行性変化について復習の上臨む
7	<p>直接授乳の援助</p> <p>授乳姿勢のアセスメントと支援</p> <p>ハンズオフによる説明</p> <p>吸着困難な場合の支援</p> <p>キーワード: ポジショニング ラッチオン 授乳姿勢</p> <p>ページ: p143~167</p>	講義 乳房模型、人形を用いた演習	
8	<p>授乳の観察と援助</p> <p>コミュニケーションスキルを用いた支援の実際</p> <p>キーワード: 母乳育児観察用紙 エンパワメント</p> <p>ページ: p169~173</p>	授乳支援の実習	
9	<p>母乳育児支援のための具体的な方法</p> <p>母児同室の推進 赤ちゃん主導の授乳とは</p> <p>母乳以外の栄養や水分を補足する危険性</p> <p>キーワード: 添い寝 空腹のサイン 乳頭混乱</p> <p>ページ: p175~190</p>	講義・演習	ページ該当範囲を精読
10	<p>母乳の分泌 母乳不足についての心配</p> <p>正常な成長パターンと支援 哺乳量と母乳産生の改善</p> <p>キーワード: 母乳不足感 体重増加 吸着の改善</p> <p>ページ: p191~204</p>	講義・演習	ページ該当範囲を精読

11	特別な援助が必要な赤ちゃん 早産・低出生体重で生まれた赤ちゃんへの支援 母乳以外の栄養を必要とする医学的理由 キーワード: NICU 経口摂取 母親への配慮 双子 搾母乳 生理的黄疸 口唇・口蓋裂 ページ: p205~221	講義・演習	ページ該当範囲を精読
12	直接授乳できない場合の支援 搾乳方法と支援(手による搾乳 搾乳器) 搾母乳の飲ませ方 キーワード: カップ授乳 母乳の保管 母乳銀行 ページ: p223~233	講義・演習	ページ該当範囲を精読
13	乳房と乳頭の形状・病変 乳房と乳頭の観察 乳房緊満と乳腺炎、乳頭痛の原因・予防・援助 キーワード: 乳房緊満 乳腺炎 乳頭痛 乳管閉塞 陥没乳頭 カンジダ感染症 ページ: p243~269	講義・演習	ページ該当範囲を精読
14	母親の健康と母乳育児 母乳育児と栄養ニーズ 母親の病気と母乳育児支援 妊娠間隔と母乳育児 キーワード: 母乳育児を続ける利点 母乳と薬剤 ページ: p283~294	講義・演習	ページ該当範囲を精読
15	母親への継続的な支援 赤ちゃんにやさしい病院(BFHI)の実践 キーワード: 退院時の支援 ピアサポート 職場復帰 BFHI ページ: p283~339	講義・演習	ページ該当範囲を精読

使用テキスト	母乳育児スタンダード: 医学書院
参考書 (参考資料等)	「母乳育児成功のための10カ条」の実践; 医学書院 セミナーにおいて講師から紹介
この授業科目を前提とする主な科目	基礎看護学 母性看護学 助産学概論 助産診断・技術学の科目群
この授業科目から発展する主な科目	助産学実習
成績評価の方法	出席状況と各回アクションシート 最終レポートで評価する
その他 受講生への要望等	4~5月 10月 12月の時期に、1日4コマを4日間実施するセミナー形式の授業です。 集中講義となりますので、休まないようにしてください。 出席時間数に応じて、国際認定試験を受験するための教育単位を取得することができます。 乳房模型と人形を各自準備します。各回の順序は講師の組み立てで入れ替わります(初回提示)。

授業科目名	地域母子保健	実務経験講師	○
担当者名	◎ 大塚和代 三浦孝子 阿部 淳子 他	実務経験	助産師 保健師
開講年度	2026年度	学 期	通年
年 次	—	授業回数	15 回
単位数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	<p>助産の対象は地域での生活の中で子育てを行います。この科目では、安心できる子育てを実現するために、助産師として必要な母子保健制度について現状と課題を理解し、母子保健活動の視点や意義・仕組み・活動の実際を学習します。また、助産師の活動が求められる地域でのサポートそのしくみ、国際支援、災害の場における母子保健実践活動についても、事例を用いるなどして理解を深めます。</p> <p>さらに地域で生活する母子(特に生後 4 か月頃まで)の、育児上の困難やそこへのサポートについて実情について知見を広げ、地域における助産師の役割を概観するための科目です。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域母子保健の定義や範囲を理解し、地域で暮らす母子を支援する意義を説明できる</li> <li>2. 母子保健の現状と動向を理解し説明できる</li> <li>3. 地域母子保健活動の展開方法を理解し説明できる</li> <li>4. 正常経過にある乳幼児の特徴と家族への支援が述べるができる</li> <li>5. 地域で生活する生後 4 か月ごろまでの乳幼児の診察・健康診査について理解できる。</li> <li>6. 国際母子保健について理解し説明できる</li> <li>7. 地域で暮らす母子と助産師活動のあり方について知り、助産師の役割を考察できる</li> <li>8. 多職種と連携・協働しながら包括的に子育て世代を支援する必要性と方法について演習での学びを通して説明できる</li> </ol>		

#### 授業スケジュールと内容

回	講師	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	大塚	<p>地域母子保健の基本</p> <p>地域の概念 地域の特性と地域母子保健</p> <p>地域母子保健活動の意義</p> <p>キーワード:コミュニティ 生活圏 母子保健活動の場</p> <p>妊娠から出産 子育て 疾病と事故を予防</p> <p>ネットワーク</p> <p>教材:教科書 p2～18</p>	講義	
2	大塚	<p>母子保健の現状と動向</p> <p>統計資料の分析 母子保健をめぐる諸問題と課題</p> <p>キーワード:人口動態計 母体保護統計</p> <p>人口構造 育児環境の変化 医療環境の変化</p> <p>教材:教科書 p19～34</p>	講義	<p>母子保健にかかわる統計について、どのような項目が関係するか予習し授業に臨む</p> <p>授業後、国・都道府県・市町村の役割について復習する</p>

3	大塚	<p>わが国の母子保健行政 母子保健行政の進展 母子保健関係法規 国・都道府県・市町村の役割 キーワード:母子保健法 児童福祉法 国 都道府県 市町村 教材:教科書 p36～51</p>	講義	母子保健制度について復習し授業に臨む
4	大塚	<p>わが国のおもな母子保健制度 母子保健制度の概要 健康診査 保健指導 療養援護 医療対策 予防接種 不妊 ひとり親家庭の支援 キーワード:妊婦健康診査 乳幼児健康診査 妊娠届出と母子健康手帳交付 訪問指導 予防接種法 自立支援 教材:教科書 p52～85</p>	講義	健康日本 21 と健やか親子 21 について、第 1 次と第 2 次の施策の違いについて理解し授業に臨む
5	大塚	<p>わが国の母子保健施策 健康日本 21 と健やか親子 21 少子化対策と次世代育成支援 市町村母子保健計画の推進 キーワード:健康日本 21(第 2 次) 健やか親子 21(第 2 次) 子ども・子育て応援プラン 行政 民間組織 連携 母子保健事業 教材:教科書 p78～108</p>	講義	
6	大塚	<p>地域母子保健活動の基盤 関係機関の役割および連携方法 地域母子保健ニーズの把握方法 施策化の方法 キーワード:関係機関 連携 ニーズ 合意形成 評価 教材:教科書 第 4 章 p116～136</p>	講義	
7	福嶋	<p>包括的性教育 主要概念 スキルと学習内容 展開の実際</p>	講義	単位認定試験対象外
8	阿部	<p>地域母子保健活動の実際 母子保健活動を展開する場と特徴 地域組織活動 地域の支援活動 必要性と目的 子育て環境の現状 地域支援 訪問指導の理論と実際 妊婦・褥婦・新生児  キーワード:地域組織活動 地域の子育て支援 訪問指導の現状 目的・対象 訪問指導の実際 関係法規 教材:教科書 p145～152 教材:教科書 p153～180</p>	講義	

9 10	三浦	<p>国際母子保健</p> <p>諸外国の母子保健活動</p> <p>海外在住日本人の母子保健</p> <p>在日外国人の母子保健</p> <p>キーワード:現状と課題 発展途上国 母子の健康問題</p> <p>海外出産 在日外国人</p> <p>教材:教科書 p216～253</p>	講義 演習	日本国内の現状と諸外国の母子保健の違いについて、自分の考えを持って授業に参加する
11	阿部	<p>1. 乳幼児の特徴と成長・発達</p> <p>1) 乳幼児の定義</p> <p>2) 身体的特徴・生理的特徴・社会的特徴</p> <p>2. 退院から 4 か月目までの乳幼児のアセスメントとケア</p> <p>1) 身体的成長・発達と評価と支援</p> <p>2) 心理・社会的発達の評価と支援</p> <p>3. 成長・発達に影響する要因の評価と支援</p> <p>キーワード:乳幼児 成長・発達 個別性 養育者</p> <p>教材:教科書 助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ新生児・乳幼児 p102～127</p> <p>配布資料 マタニティ診断ガイドブック</p>	講義	
12	阿部	<p>1. 正常な経過にある乳幼児の援助</p> <p>1) 発達を促進するケア</p> <p>2) 社会性を促進するケア</p> <p>3) 起こりやすい事故の予防と対策</p> <p>4) 起こりやすい疾病の予防的ケア</p> <p>5) 家族へのケア 4) 予防接種</p> <p>キーワード:乳幼児期の発育・発達 心身の問題</p> <p>児の行動 母子関係 生活習慣の確立 家族</p> <p>事故(交通事故 窒息 溺死・溺水</p> <p>転倒・転落誤飲)</p> <p>教材:教科書 助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ新生児・乳幼児 p120～145</p> <p>配布資料</p>	講義	

13	阿部	<p>1. 乳幼児の健康診査</p> <p>1) 乳幼児健康診査の変遷</p> <p>2) 乳幼児健康診査の目的と意義</p> <p>2. 乳幼児の健康診査</p> <p>1) 乳幼児健診の実際</p> <p>(4か月健診を中心に それぞれのポイント)</p> <p>1ヶ月児健康診査 4ヶ月児健康診査</p> <p>1歳6ヶ月児健康診査 3歳児健康診査</p> <p>2) 健康診査と事後フォロー</p> <p>3) 育児支援としての健康診査</p> <p>4) 保健師との連携</p> <p>キーワード: 乳幼児期の発育・発達 心身の問題</p> <p>児の行動 養育者の支援 個別性</p> <p>母子関係 保健指導(集団・個別)</p> <p>教材: 配布資料</p>		
14	阿部	<p>正常経過逸脱状態にある母子のケア</p> <p>乳幼児と病気</p> <p>育てにくさを感じる親に寄り添う支援</p> <p>キーワード: 感染症 アレルギー 虐待 発育・発達の問題</p> <p>教材: 教科書(助産学講座8)p242~251</p> <p>配布資料</p>	グループ ワーク等	
15		終講試験		

使用テキスト	<p>助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 (医学書院)</p> <p>助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ【3】新生児期・乳幼児期</p> <p>わが国の母子保健 (公益財団法人 母子衛生研究会)</p>
参考書 (参考資料等)	国民衛生の動向
この授業科目の前提 となる主な科目	<p>母性看護学 看護の統合</p> <p>助産学概論</p> <p>助産診断・技術学Ⅱ 妊娠期</p> <p>助産診断・技術学Ⅳ 産褥期</p> <p>助産診断・技術学Ⅴ 新生児期</p>
この授業科目から発 展する主な科目	地域母子保健実習
成績評価の方法	終講試験
その他 受講生への要望等	<p>母子の暮らしやその家族を支える仕組みについて知ることで、出産から子育て開始、子の成長に即したサポートを実現することが可能になります。産んで育てるということを連続線上にとらえる視点を養ってほしいと思います。特に生後4か月ごろまでは助産師が主体となって母子を支援することが求められます。この科目で学ぶべきことは何か、なぜ学ぶ必要があるのかを考えながら受講しましょう。</p>

授業科目名	助産管理		実務経験講師	○
担当教員名	君島 清美 成田 伸 大下 倍代 他		実務経験	助産師
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	－	授業回数	15 回	
単 位 数	2単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	助産師は業務範囲や法的責任などの助産管理の基本知識、助産マネジメントの能力が求められます。助産管理の基本概念、助産師の業務管理、周産期管理システムの運用を学びます。また、病院・助産所などの助産の行われる場における管理と地域連携システム、周産期の医療事故や災害発生と助産業務などの助産師の危機管理を学習する授業科目です。			
授業科目の到達目標	1. 助産管理の基本概念について説明できる。 2. 周産期医療システムの運用と地域連携、助産の果たす役割について述べられる。 3. 医療保険制度と母子に対する社会保障制度が説明できる。 4. 助産業務に関する法規が説明できる。 5. 病院・助産所の業務管理・運営と助産師の役割について説明できる。			

#### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1 2	君島	1. 助産管理の基本 1) 管理の基本概念とプロセス 2) 助産管理の概念 3) 助産と医療経済 4) 助産業務管理の過程 5) 助産業務管理の方法 キーワード: 助産管理 マネジメント 助産業務 診療報酬 教材: ①P2～26	講義	教科書を読んで授業に臨む
3 4	君島	1. 関連法規と助産師の義務・責任 1) 関連法規 2) 助産師の法的責任と義務 キーワード: 助産業務 法律 法的責任 義務 教材: ①P28～50	講義	教科書を読んで授業に臨む
5 6	君島	1. 周産期管理システムとリスクマネジメント 1) 周産期搬送システム 2) オープンシステム キーワード: NICU 母体搬送 オープンシステム 教材: ①P56～79	講義	教科書を読んで授業に臨む
7 8 9	成田	1. 周産期管理システムとリスクマネジメント 1) 周産期の医療事故とリスクマネジメント 2) 感染対策 3) 災害対策 キーワード: 産科医療補償制度 医療事故 感染 リスクマネジメント 災害 教材: ①P80～97	講義	教科書を読んで授業に臨む

10	七海	1. 病産院における助産業務管理 1)産科棟の管理 2)院内助産・院内助産院の管理 3)外来の助産管理 キーワード:看護体制 労務管理 院内助産 教材①P100~156	講義	教科書を読んで授業に臨む
11 12	大下	1. 助産所における助産業務管理 1)助産所の管理に関する法規 2)助産所の管理・運営 3)助産所の経営 キーワード:助産所 法規 運営 経営 教材:①P158~187	講義	教科書を読んで授業に臨む
13	室井	分娩期に起こりえる医療事故とその防止 分娩期の感染管理 キーワード:分娩期 感染 管理 医療事故 防止 教材:配布資料	講義	
14	桑原	産科医療と訴訟	講義	評価外 助産学生合同研修
15		単位認定試験		

使用テキスト	①助産学講座 10 助産管理 第6版 医学書院
参考書・資料等	助産師基礎教育テキスト 2025年版 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会 助産師業務要覧 第2版 基礎編 助産師業務要覧 第2版 実践編 産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 日本産科婦人科学会 助産業務ガイドライン 2024 配布資料
この授業科目を前提とする主な科目	母性看護学 看護管理 地域母子保健 助産診断・技術学Ⅴ 新生児期
この授業科目から発展する主な科目	助産管理実習
成績評価の方法	単位認定試験
その他 受講生への要望等	助産師が助産活動をする上で助産管理の在り方を理解しておくことは重要です。 講義開始は、助産管理実習終了後となります。 管理実習の学びと講義の知識が関連づけられると、より理解が深まります。

授業科目名	助産診断・技術学実習		実務経験講師	○
担当教員名	丸山 深雪 大垣 江美子 齋藤 美玖 他		実務経験	助産師
開講年度	2026年度	学 期	前期・後期	
年 次	—	授業回数		
単 位 数	9 単位	単位時間数	405 時間	
授業科目の概要	<p>妊娠・分娩産褥期および新生児期にある対象を総合的に理解し、対象に適した助産過程を展開するために必要な知識・技術・態度を修得するための実習です。10 例の産婦を受持たせて頂き助産過程の展開と指導者の指導のもとで助産介助技術を修得します。継続事例を 1 例受持たせて頂き、妊娠期から産後 1 ヶ月までの継続した支援を行います。更に助産師として必要な指導技術や帝王切開術など異常時の対応についても学びます。また、助産師の役割や責務を自覚した行動がとれる能力を養うための実習です。</p> <p>実習は前期実習と後期実習に分かれており、前期実習後に学内で前期実習の振り返りを行い自己の成長と課題を明確にして、後期実習に臨みます。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正確で安全な手技で、妊産褥婦・新生児の健康診査が実施できる。</li> <li>2. 妊産褥婦・新生児の助産診断ができ、助産過程を用いて対象の状況に応じたケアが実施できる。</li> <li>3. 対象の力に目を向け、エンパワメントを意識した関わりができる。</li> <li>4. 正確な手技で、安全な分娩介助が実施できる。</li> <li>5. 継続事例の受持ちをとおして、継続した助産ケアの意義を述べることができる。</li> <li>6. 小集団のニーズを把握して、小集団指導が実施できる。</li> <li>7. 実習をとおして自己の助産に対する考え方の変遷や助産師の役割と責務について述べる ことができる。</li> <li>8. 助産師として必要な資質である自己研鑽・謙虚な姿勢・良好な人間関係の構築・責任ある 態度で実習を行える。</li> </ol>			

授業スケジュールと内容

回	学内での内容	授業方法	課題／小テスト
1 ～ 3	実習オリエンテーション 実習要項 実習評価について 実習のころえ 実習配置		
4 ～ 6	実習記録について 記録物の種類 記載すべき内容(実習目的～評価まで)		
7 8	中間成長報告会		
9 10	成長報告会		

使用テキスト	助産関連の講義で使用した教科書、参考書、講義資料、自己学習資料を十分に活用する
参考書・資料 等	
この授業科目を前提とする主な科目	基礎看護学 母性看護学 助産学概論 家族社会学 女性の心理学 女性の健康科学 助産診断・技術学Ⅰ妊娠期 助産診断・技術学Ⅱ分娩期 助産診断・技術学Ⅲ分娩期の助産技術 助産診断・技術学Ⅳ産褥期 助産診断・技術学Ⅴ新生児期 母乳育児支援 健康教育の技術 助産過程の展開 助産師のコミュニケーション
この授業科目から発展する主な科目	助産管理実習 地域母子保健実習
成績評価の方法	実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の資格を得る 分娩介助については実習全期を単位認定の対象とし、総合的・形成的に評価する 実習終了時、助産診断・技術学実習評価表により評価する
その他 受講生への要望等	助産師として必要な知識・技術・態度を修得するためのメインとなる実習です。そのため単位数・実習時間も多くなっています。助産師として必要な知識が深まり技術が上達して学ぶ喜びもありますが、長い実習期間困難に遭遇することもあるかも知れません。実習グループの学生や教員と相談し協力して実習を乗り切っていきましょう。

授業科目名	地域母子保健実習	実務建研講師	○
担当者名	持田 益身 斎藤 美玖	実務経験	助産師
開講年度	2026年	学 期	前期～後期
年 次	—	授業回数	—
単位数	1単位	単位時間数	45時間
授業科目の概要	診療所、助産所における母子への支援を学ぶとともに、助産師の役割と活躍について理解します。さらに市町村における実習を通して、病院施設等との連携を学ぶとともに、行政の母子および家族を支援する地域母子保健システムを総合的に理解します。		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の特性を踏まえた地域母子保健活動の仕組みと実際を理解し、助産師の役割を考察できる。</li> <li>2. 地域で暮らす対象者が安心して子育てするための、社会資源の活用・関係職種や機関との連携がわかる。</li> <li>3. 対象の生活の場を知り、継続的な関わりの重要性と個に応じた保健指導の必要性について考察できる。</li> <li>4. 産後の初期段階～4 か月程度における母子に対する支援強化の必要性と産後ケア事業の取り組みを理解し、助産師の関わりを学ぶことができる。</li> </ol>		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
	実習要項参照 <b>【実習の展開】</b> 1) 診療所における産後 2 週間検診を見学し、母乳支援や産後うつを含めた助産師の保健指導の活動を見学する 2) 市町村での実習を通して行政と病院等の連携を学ぶ 3) 新生児訪問を通して地域での母子保健活動を参画する 4) 産後院における母子への助産師の支援について見学する	学外実習 ・母乳相談室 助産師の地域活動 ・産後 2 週間検診 母乳相談 ・産後院の役割活動 ・市町村 行政側の母子保健活動	産後 2 週間検診について事前学習し、産後検診実習に臨む。  各市町村の特徴を理解把握、事前レポートし実習に臨む。  実習後レポートあり。

使用テキスト	助産関連の講義で使用した教科書、参考文献、講義資料、自己学習資料を十分に活用する
参考書(参考資料等)	
この授業科目の前提となる主な科目	助産診断・技術学Ⅰ 妊娠期 助産診断・技術学Ⅳ 産褥期 助産診断・技術学Ⅴ 新生児期 地域母子保健 助産師のコミュニケーション
この授業科目から発展する主な科目	地域母子保健
成績評価の方法	出席は 5 分の 4 以上とすることで、単位認定の資格を得る。実習評価は、実習に対する態度・意欲、出席状況、実習記録、助産の実践状況の観点から実習目標と照らし合わせて総合的に評価する。 (地域母子保健実習評価表に基づき評価する)
その他 受講生への要望等	今まで学んだ知識や技術をしっかりと復習し実習に臨んでください。学生であっても看護師の免許を持った医療スタッフの一員だという自覚を持ち、責任ある行動をとってください。 短期実習ですので、自己の健康管理に注意して主体的に学修を進めてください。

授業科目名	助産管理実習		実務経験講師	○
担当教員名	大垣 江美子 丸山 深雪 齋藤 美玖 他		実務経験	助産師
開講年度	2026年度	学 期		
年 次	年次	授業回数		
単 位 数	1 単位	単位時間数	45 時間	
授業科目の概要	<p>病院・助産所における助産管理と運営について学びます。</p> <p>産科病棟・助産所・NICU の様々な場において、妊婦・産婦・褥婦・新生児が安全で快適な入院生活および退院後の生活を安心して送るための助産管理の実際を学びます。</p> <p>さらに、ハイリスク管理の重要性、地域の社会資源の活用、他職種・他施設との連携の在り方や包括的ケアの実際を学ぶ科目です。</p>			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産科病棟・助産所の助産業務と助産師の役割を述べるができる。</li> <li>2. 周産期医療に関わる助産師の役割について説明できる。</li> <li>3. 地域連携の必要性和実際が関連づけられる。</li> <li>4. ハイリスクな状況にある対象に対し、特性に合わせたケアが見学、手順通り実施できる。</li> <li>5. チーム医療の一員である助産師が他職種と協働・連携しながら多角的視点で支援する方法を見出すことができる。</li> </ol>			

#### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1		<p>実習要項参照</p> <p>産科病棟:助産業務管理、病棟管理、人的・物的環境管理、周産期管理システムの見学</p> <p>NICU:NICU の業務管理、入院患児の特性とケアを見学できる。他機関・他部門との連携の実際</p> <p>助産所:助産所管理・運営の実際と経営</p> <p>助産所のケアと支援事業の見学</p>	<p>学外実習</p> <p>(実習施設は要項参照)</p> <p>・産科病棟</p> <p>・NICU</p> <p>・助産所</p>	<p>NICU・産科病棟・助産所実習における沿って事前学習して実習に臨む</p> <p>実習終了後、レポート提出あり</p>

使用テキスト	助産学講座 10 助産管理 第 6 版 医学書院
参考書・資料 等	<p>助産師業務要覧 基礎編 日本看護協会出版会</p> <p>助産師業務要覧 実践編 日本看護協会出版会</p> <p>助産業務ガイドライン 2024</p> <p>助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅴ 新生児期・乳幼児期</p>
この授業科目を前提とする主な科目	<p>助産診断・技術学Ⅴ新生児期</p> <p>助産師のコミュニケーション</p>

この授業科目から発展する主な科目	助産管理 助産診断・技術学Ⅴ新生児期
成績評価の方法	出席は5分4以上で単位認定の資格を得る。 実習評価は、実習に対する態度・意欲・出席状況・実習記録・事後レポートで総合的に評価する。(助産管理実習評価表に基づいて評価する)
その他 受講生への要望等	助産管理の講義は実習終了後になりますが、事前学習を十分に行ってから実習に臨んでください。